

2017 年度の利用者アンケート調査結果

< 目 次 >

第 1 節 蟹江線 利用者アンケート調査結果	1
第 1 調査概要	1
第 2 蟹江線（公民館分館行）の調査結果	3
第 3 蟹江線（近鉄蟹江行）の調査結果	11
第 2 節 名港線 利用者アンケート調査結果	20
第 1 調査概要	20
第 2 名港線の調査結果	21
第 3 節 海南病院通院支援タクシー 利用者アンケート調査結果	29
第 1 調査概要	29
第 2 海南病院通院支援タクシーの調査結果	30

第1節 蟹江線 利用者アンケート調査結果

第1 調査概要

飛島公共交通バス（蟹江線）の利用者の意向を確認するため、利用者向けアンケート調査を実施した。

蟹江線は、交通網形成計画の中間評価として実施することから、計画策定時と同様に平日1日・休日（土曜）1日の合計2日間の調査とした。

調査対象

飛島公共交通バス（蟹江線）の利用者

調査日

2017年10月13日（金）～14日（土）

回収締切：11月13日（月）到着分まで

実施方法

調査員による直接配布（車内にて）・郵送回収

（配布時間 7：00～18：30）

配布・回収数

	配布数	回収数	回収率	前回
公民館分館行き	128件	65件	50.8%	69件（42.1%）
近鉄蟹江駅行き	115件	63件	54.8%	78件（44.8%）
小計	243件	128件	52.7%	147件（43.5%）

前前回調査は、2014年2月14日（金）～2月15日（土）の2日間

前回調査は、平日のみ運行内容の変更であったため、2016年2月12日（金）の平日1日間

結果概要

< 公民館分館行 >

- ・ 公民館分館行は、名古屋市・弥富市・蟹江町等、村外からの利用者が多く、通勤等の利用が多い。
- ・ バスロケーションシステムの導入の認知度は、過半数が「知らない」と回答しており、PRが必要とされる。
- ・ バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直し・駐輪場の整備等の取組効果は、「わからない」との回答が過半数を超えており、事業の認知度を高める必要がある。
- ・ 早朝の時間帯における利用状況は、「乗車できなかったことがある」との回答は、一人のみ存在したが、「乗車できなかったことはない」との回答が61.5%で、まだ満車が常態化はしていない。
- ・ 運行サービスに対する満足度は、「運行頻度」と「ダイヤ」の満足度が低く、「増便」の要望の声が認められる。

< 近鉄蟹江行 >

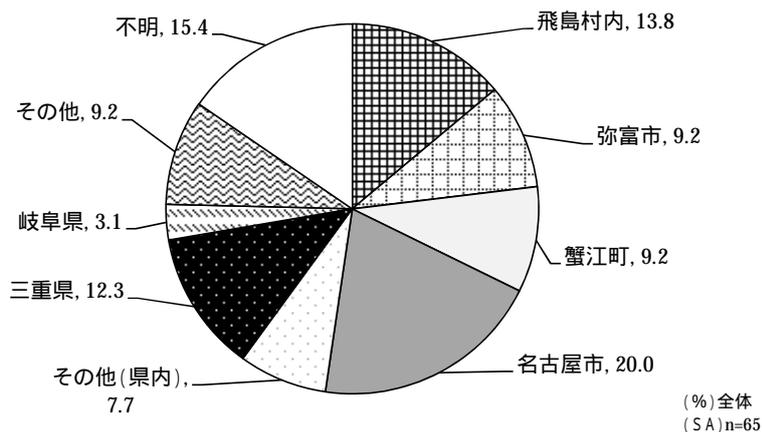
- ・ 近鉄蟹江行は、飛島村内居住者が約半数となっており、学生の通学、会社員の通勤、買い物等の利用が多い。
- ・ バスロケーションシステムの導入の認知度は、46%が「知っている」と回答しており、公民館分館行よりも認知度は高い。
- ・ バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直し・駐輪場の整備等の取組効果は、「わからない」との回答が約半数で、あまり事業効果が認められる状態とはなっていない。
- ・ 早朝の時間帯における利用状況は、「乗車できなかったことがある」との回答は、二人存在したが、「乗車できなかったことはない」との回答が63.5%で、まだ満車が常態化はしていない。
- ・ 運行サービスに対する満足度は、公民館分館行と同様に、「運行頻度」と「ダイヤ」の満足度が低く、「増便」の要望の声が認められる。

第2 蟹江線（公民館分館行）の調査結果

（1）アンケート対象の属性

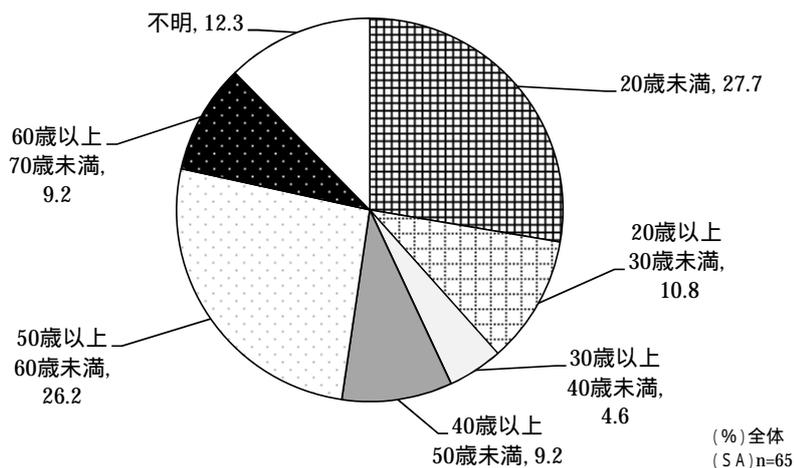
「居住地」

・「飛島村内」に居住されている方が 13.8%、「弥富市」・「蟹江町」が 9.2%、「名古屋市」が 20.0%となっている。



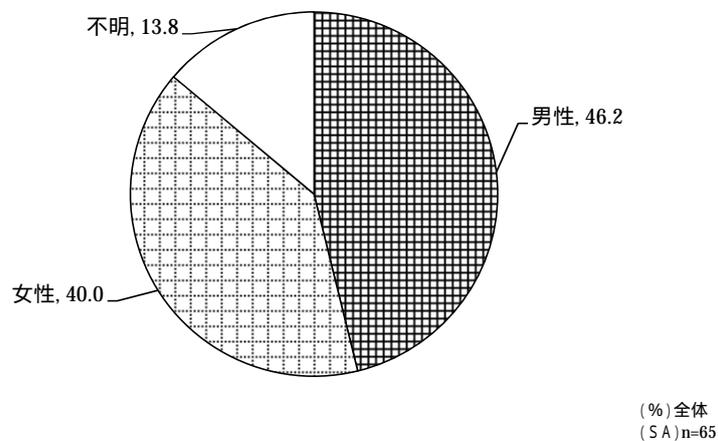
年齢

・「20歳未満」が 27.7%、「20歳以上 30歳未満」が 10.8%、「30歳以上 40歳未満」が 4.6%、「40歳以上 50歳未満」が 9.2%、「50歳以上 60歳未満」が 26.2%、「60歳以上 70歳未満」が 9.2%、「70歳以上」が 0%となっている。
・20歳未満と50歳台の利用が比較的多い。



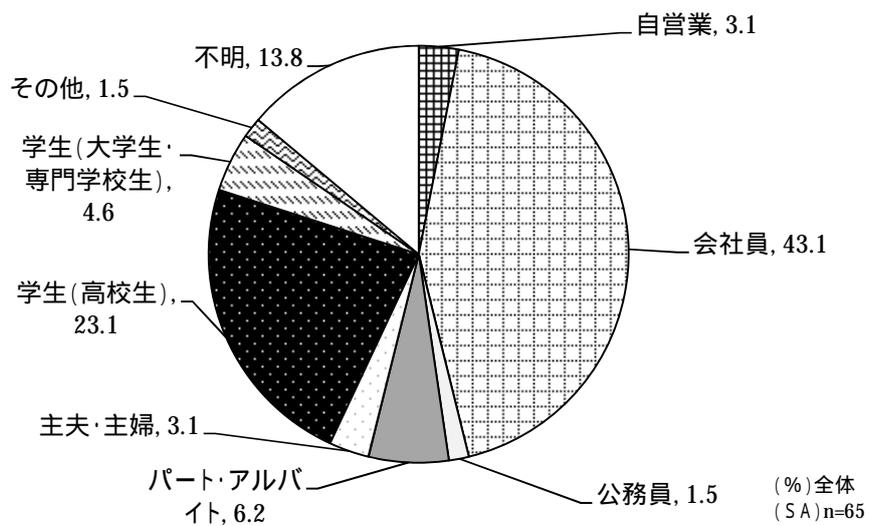
性別

・「男性」が46.2%、「女性」が40.0%となっており、若干男性が多い。



職業

・公民館分館方面であることを反映し、「会社員」が43.1%と多い。



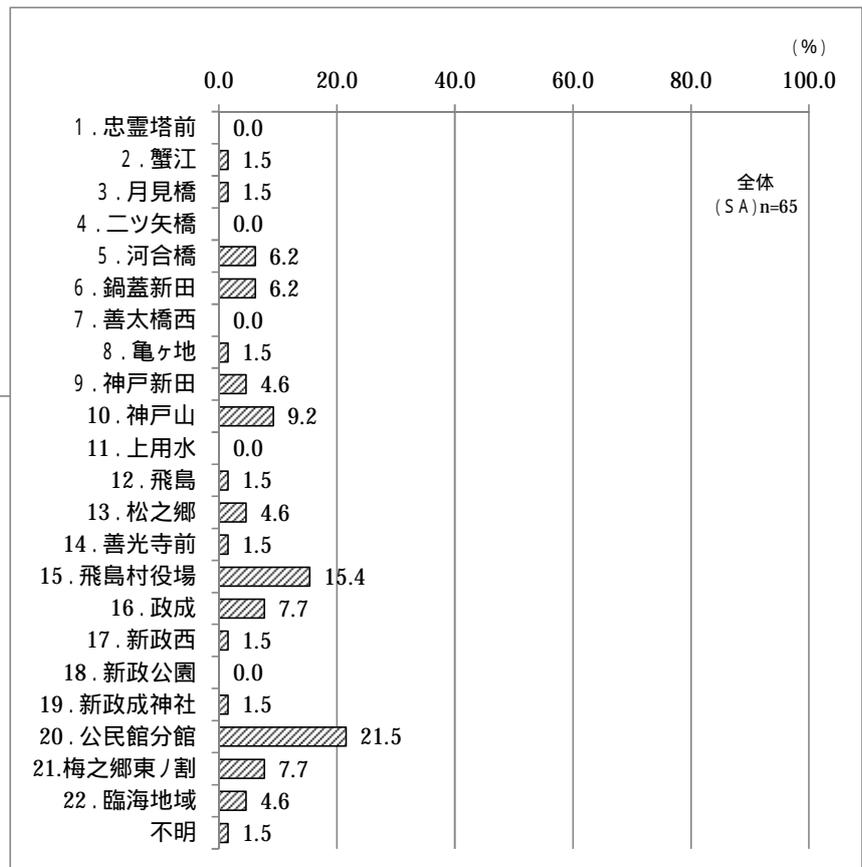
(2) 利用実態 (問1)

- 乗車バス停は、「近鉄蟹江駅前」が90.8%となっており、ほとんどが駅からの接続利用であることがわかる。
- 降車バス停は、「公民館分館」が21.7%で最も多く、次いで「飛鳥村役場」が15.4%、「神戸山」が9.2%となっている。

乗車バス停 (問1-1)

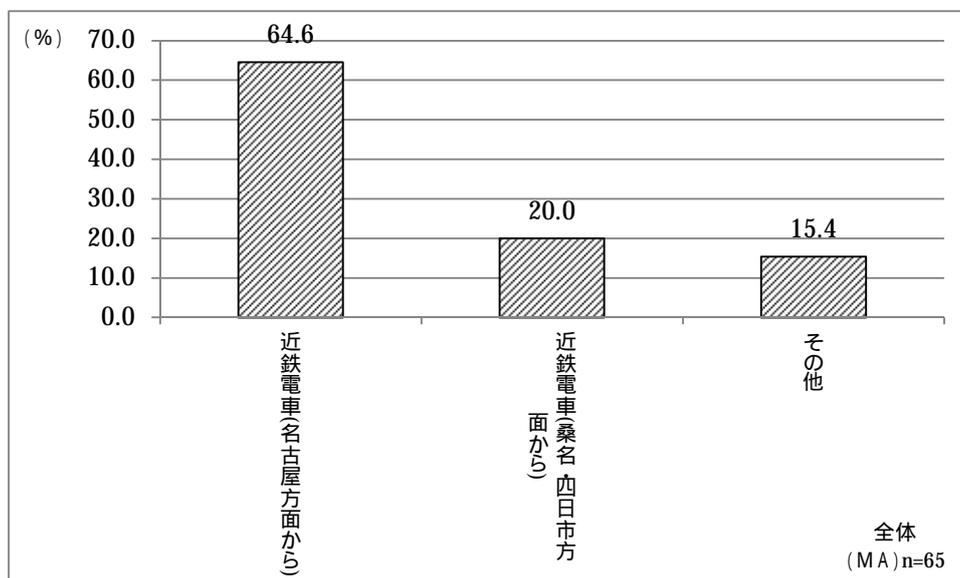


降車バス停 (問1-2)



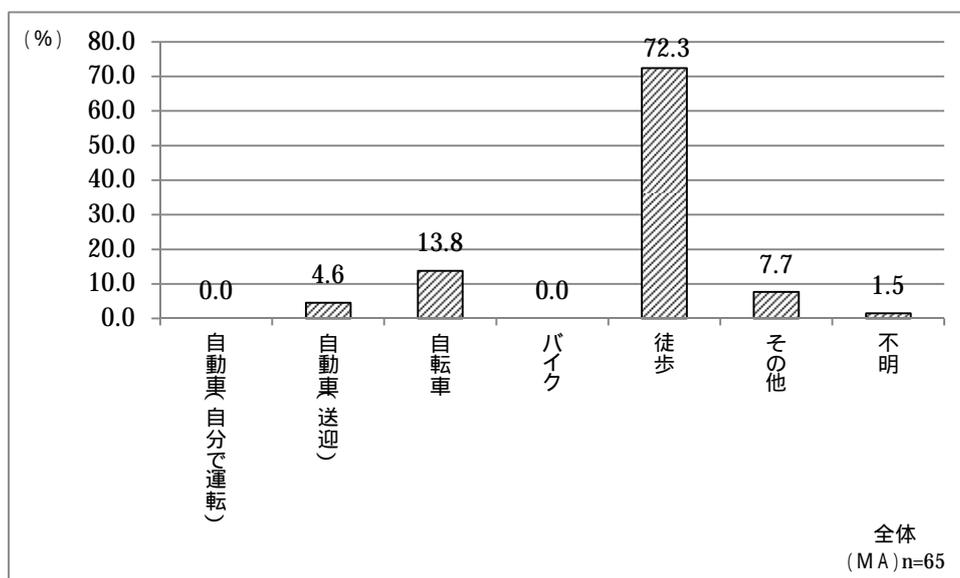
乗車する前の移動手段（問 1-5）

・「近鉄電車（名古屋方面）」からの利用が 64.6%、「近鉄電車（桑名・四日市方面）」からの利用が 20.0%、合わせて 84.6%が近鉄電車からの接続利用となっている。



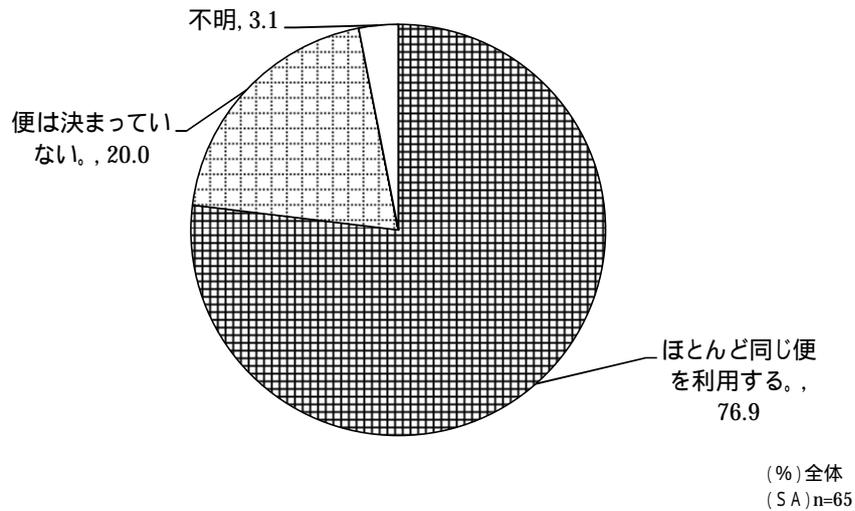
降車からの移動手段（問 1-6）

・蟹江線利用後は、「徒歩」が 72.3%となっている。



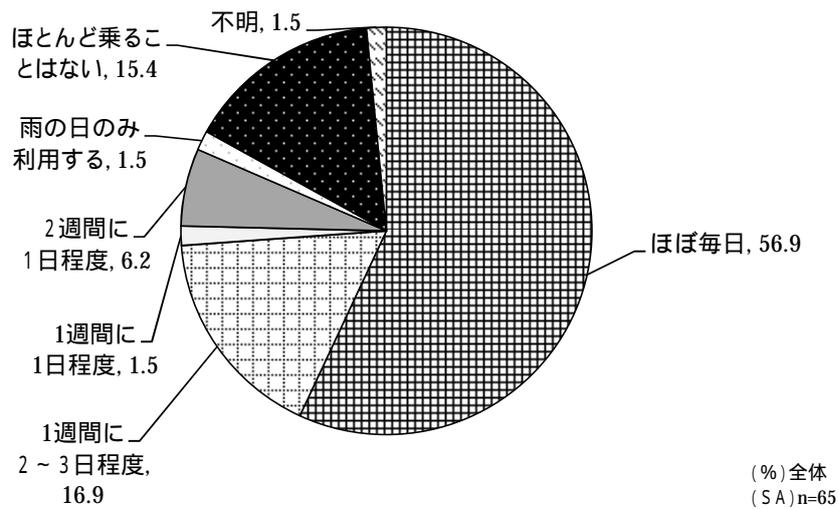
いつも同じ便を利用するか（問 1-4）

・利用する便は、「ほとんど同じ便を利用する」人は76.9%で、定期利用されている。



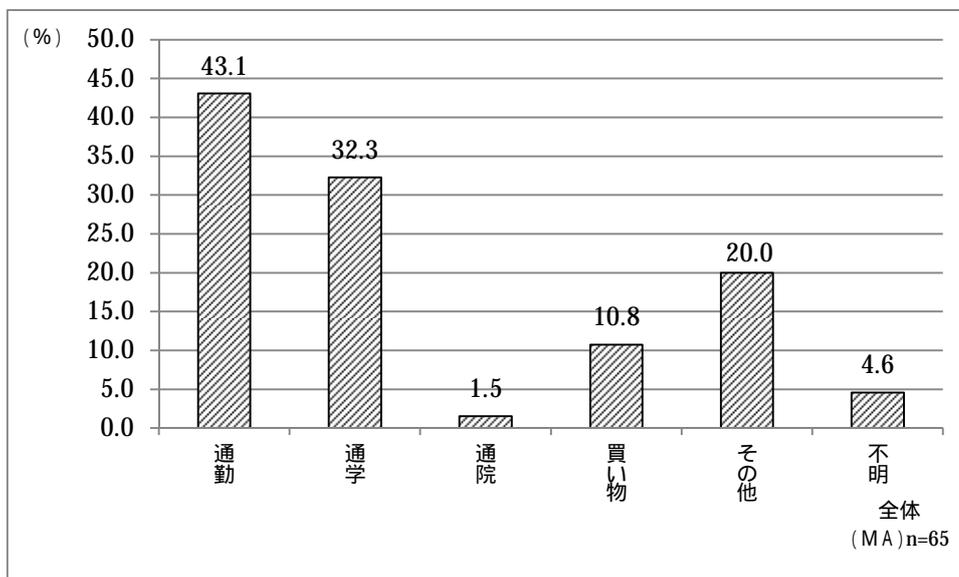
利用頻度（問 1-7）

・利用頻度は、「ほぼ毎日」が56.9%となっており、通勤等利用されていることがわかる。なお、「ほとんど乗ることはない」との回答が15.4%認められた。



利用目的（問 1-8）

・利用目的は、「通勤」が43.1%と最も多く、次いで「通学」が32.3%となっている。



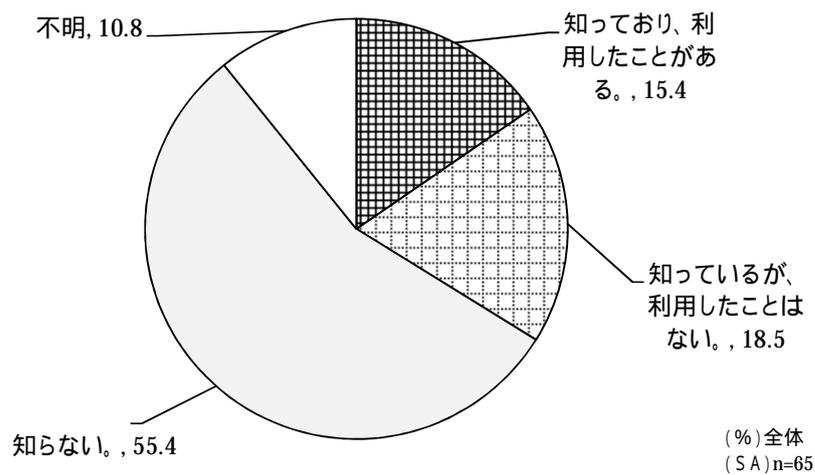
（その他利用の主なもの）

・介護施設への訪問等

バスロケーションシステムの導入の認知状況（問 1-9）

・「知らない」人が55.4%存在している。PRが必要とされる。

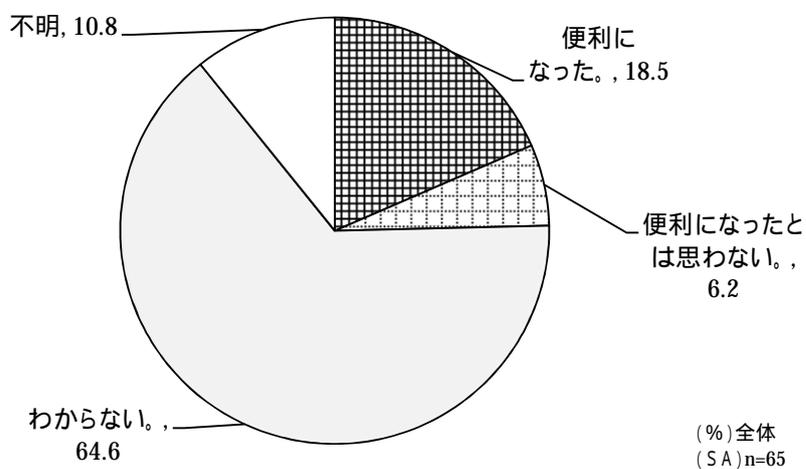
・「知っており、利用したことがある」人は15.4%確認された。



バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直し・駐輪場整備の効果（問 1-10）

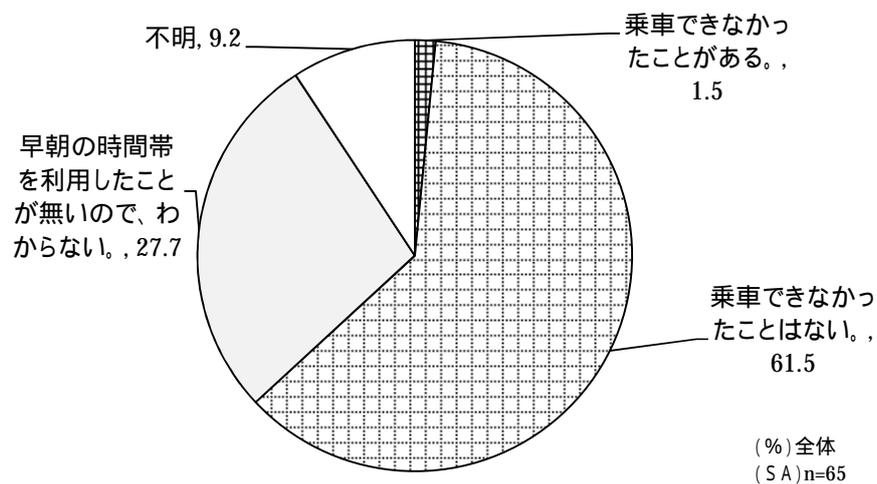
・「便利になった」との回答は 18.5%認められた。

「わからない」との回答が 64.6%であるため、事業の認知度を高める必要がある。



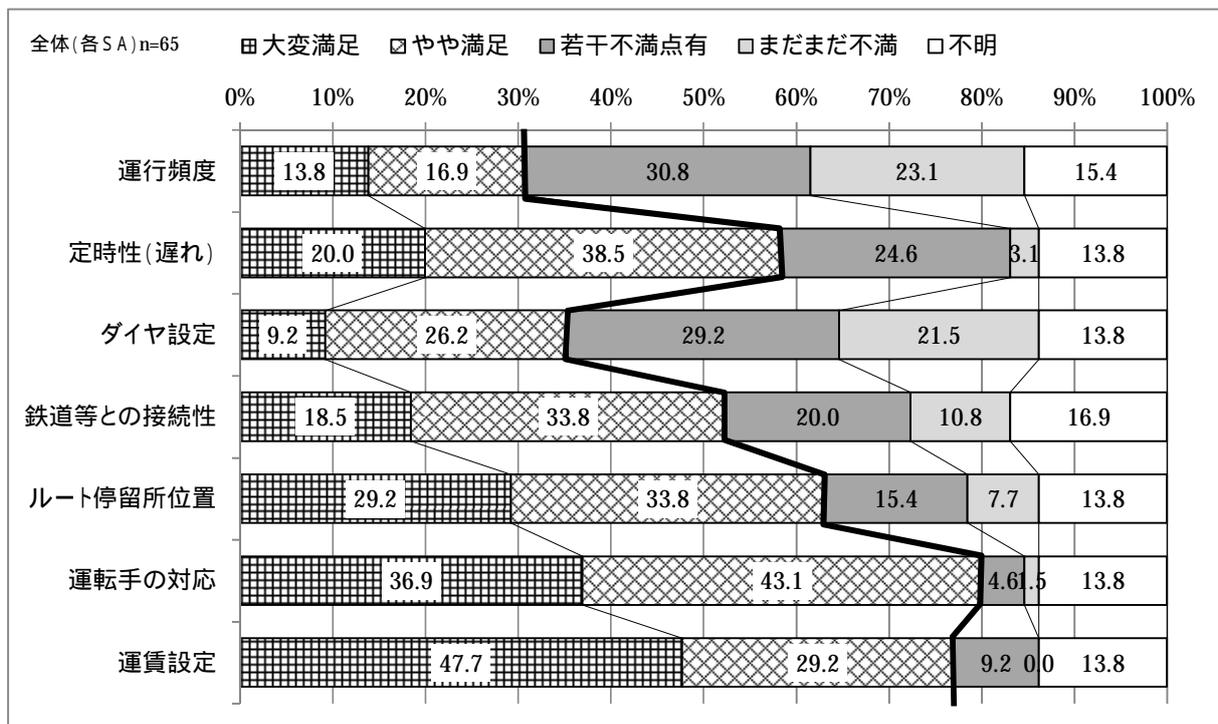
「早朝の時間帯」における利用状況（問 1-11）

・早朝の時間帯で満車となり「乗車できなかったことがある」人は 1.5%で、一人のみ存在したが、「乗車できなかったことはない」が 61.5%で、まだ、満車が常態化してはいない。

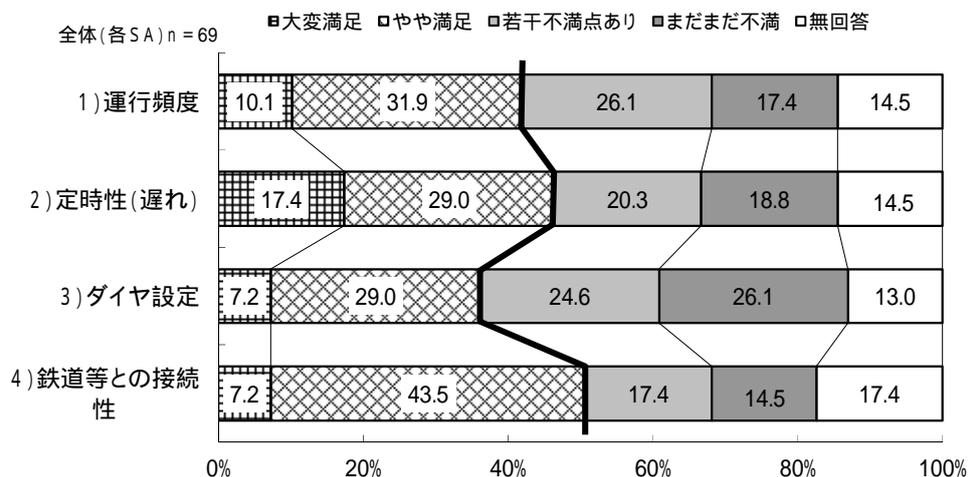


(3) 運行サービスに対する満足度

- ・「大変満足」「やや満足」の合計は、「運行頻度」と「ダイヤ」設定を除き、過半数を超えており、「運転手の対応」や「運賃設定」等は非常に満足度は高い。
- ・「運行頻度」の満足度は30.7% (42.0%)、「ダイヤ設定」は35.4% (36.2%)となっており、前回調査(括弧表記)と比較すると、満足度は低下している。
- ・自由意見でも指摘されているが「増便」の要望の声が認められる。



前回調査



(主な意見)

- ・便数を増やしてほしい。早朝時間帯を増便して欲しい(7:00発)
- ・分館17便(17:00発)を17:15発にしてほしい。(前後:16:45発、17:45発)
- ・土日を増やしてほしい。

第3 蟹江線（近鉄蟹江行）の調査結果

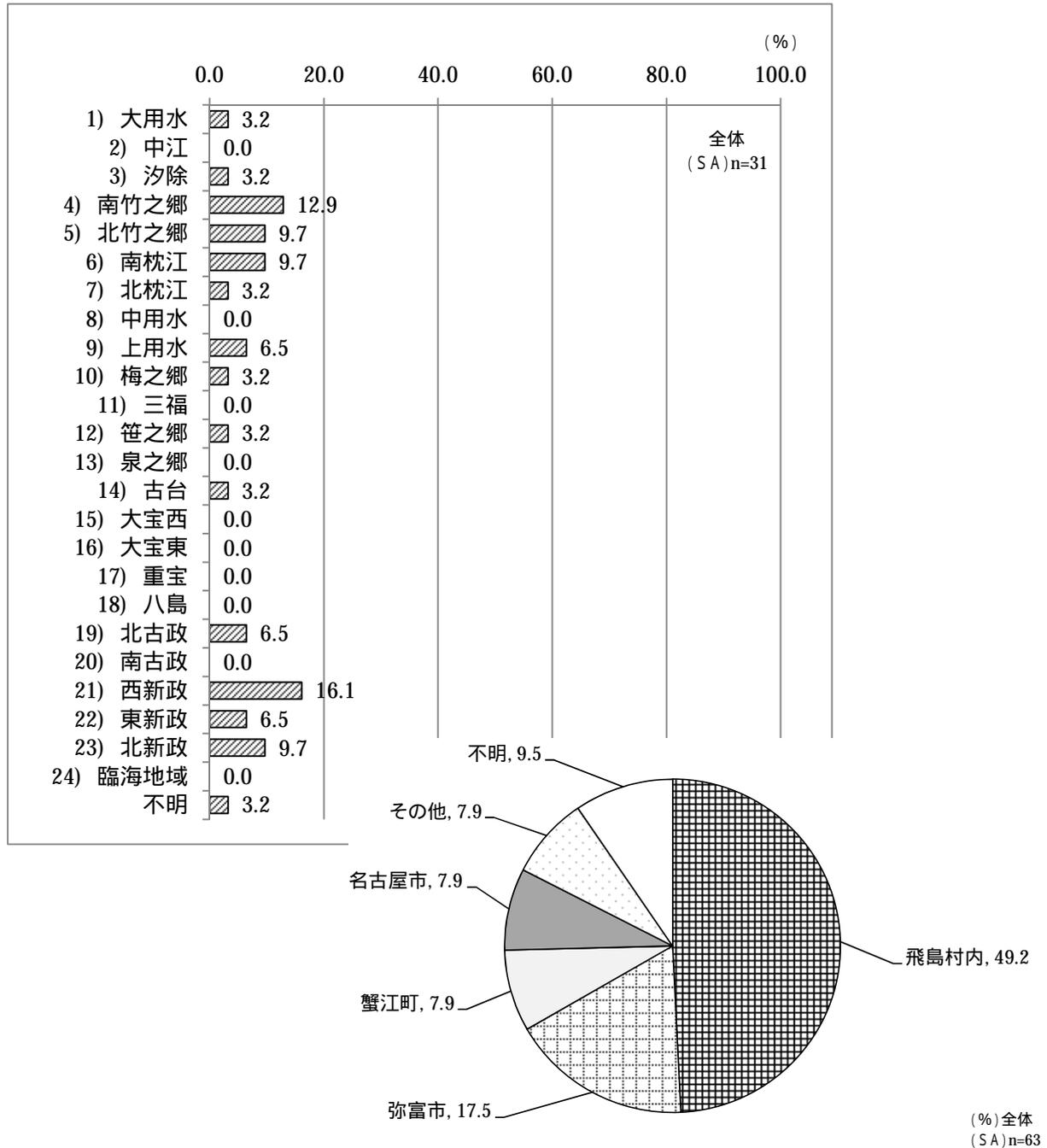
(1) アンケート対象の属性

「居住地」

・「飛島村内」に居住されている方が49.2%、「弥富市」が17.5%、「蟹江町」・「名古屋市」が7.9%となっている。

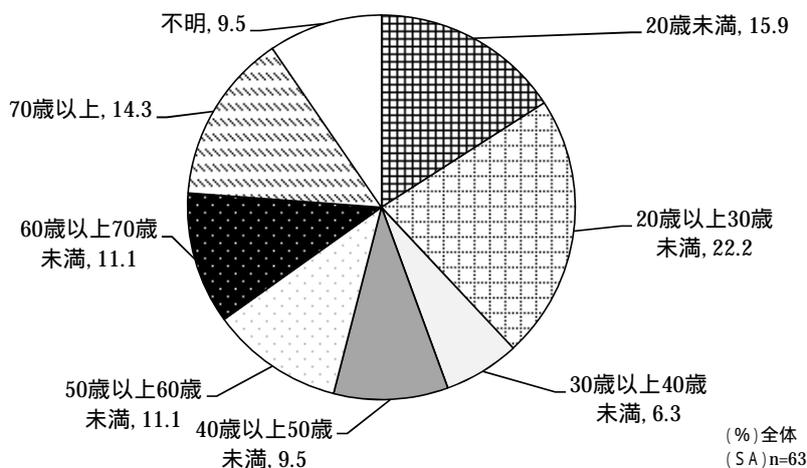
村内では、「西新政」「南竹之郷」が10.0%を超えている。

飛島村内居住者の地区名



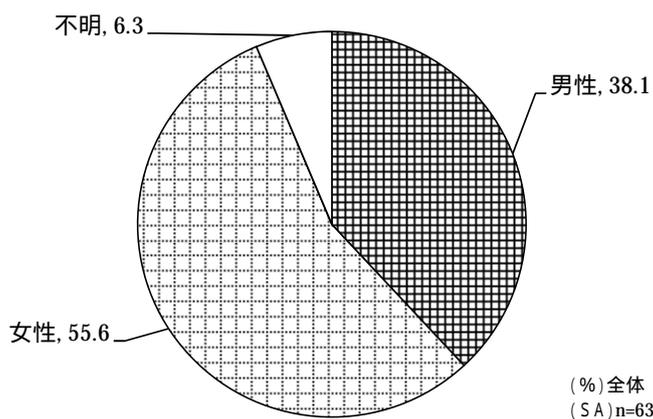
年齢

・「20歳以上30歳未満」が22.2%と最も多く、次いで「70歳以上」が14.3%となっている。



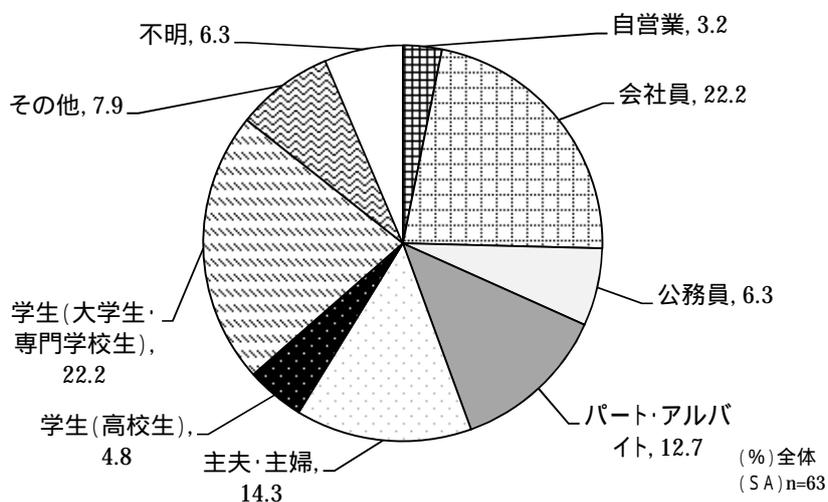
性別

・「男性」が38.1%、「女性」が55.6%となっており、女性が過半数を超える。



職業

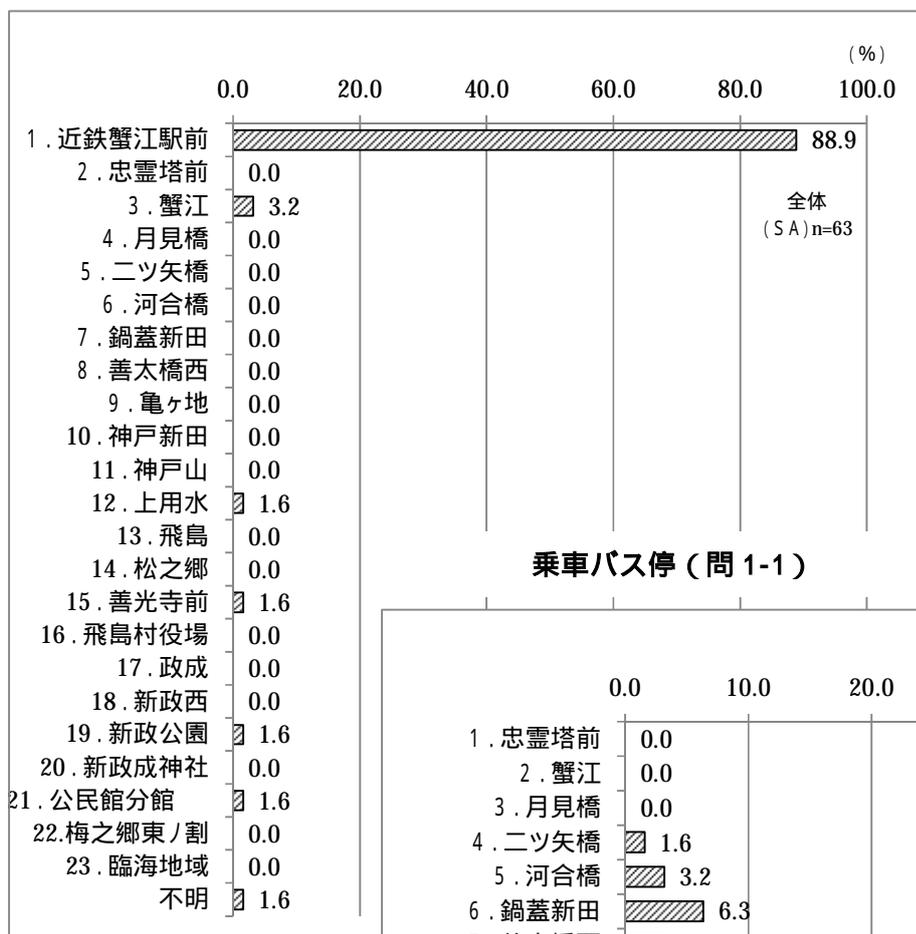
・「学生(大学生・専門学校生+高校生)」が併せて27.0%と最も多く、次いで「会社員」(22.0%)が多い。



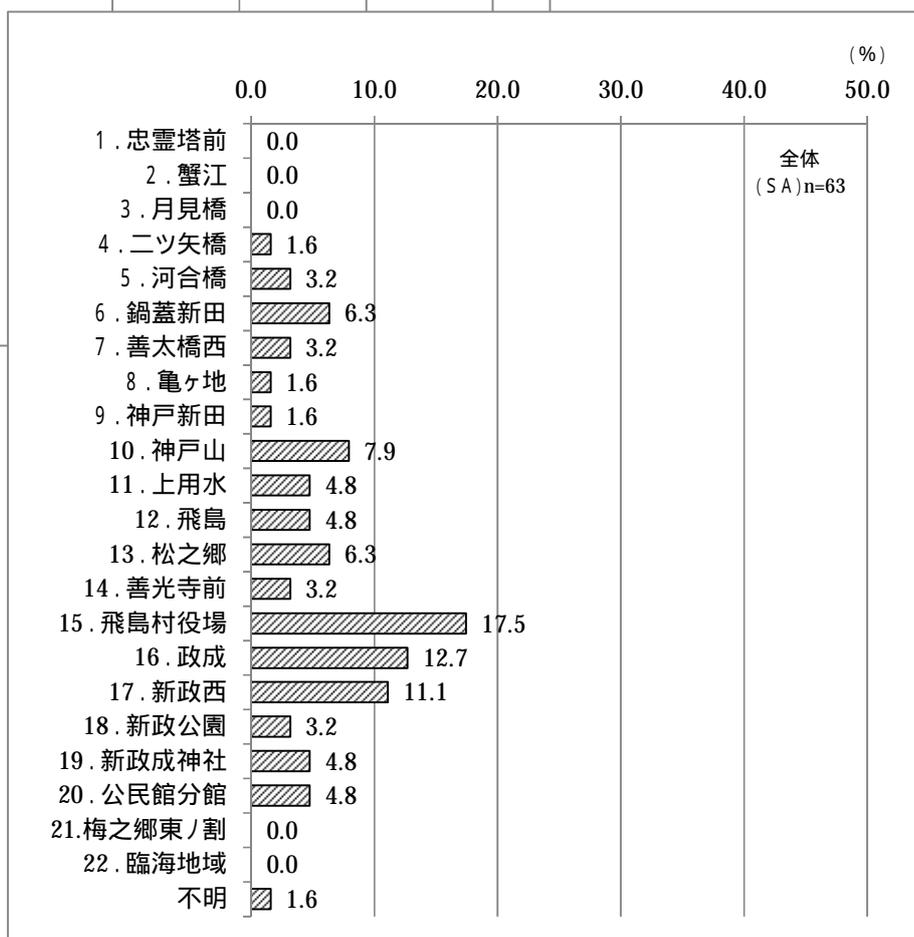
(2) 利用実態 (問1)

- ・乗車バス停は、「飛島村役場」が17.5%と最も多く、次いで、「政成」が12.7%、「新政西」が11.1%となっている。
- ・降車バス停は、「近鉄蟹江駅前」が88.9%となっている。

降車バス停 (問1-2)

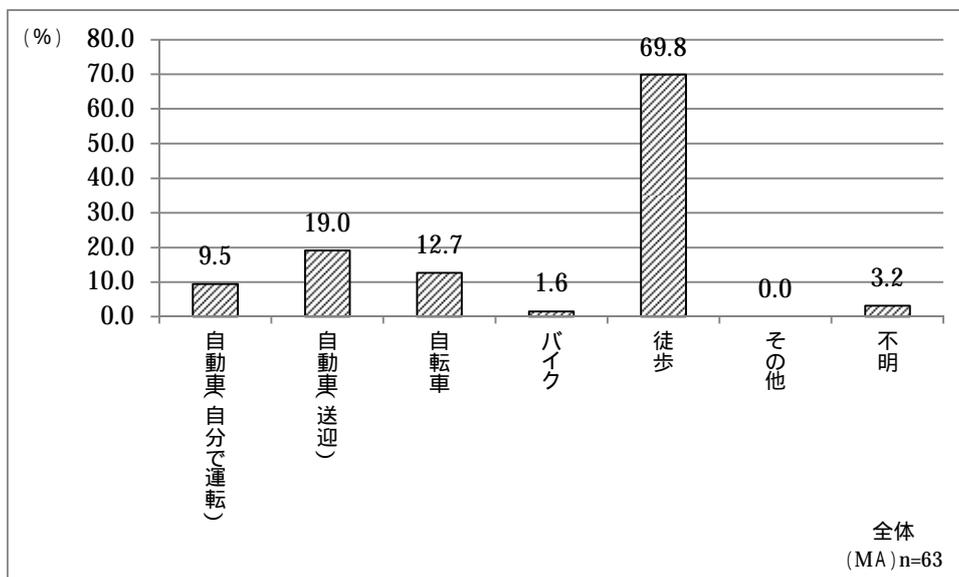


乗車バス停 (問1-1)



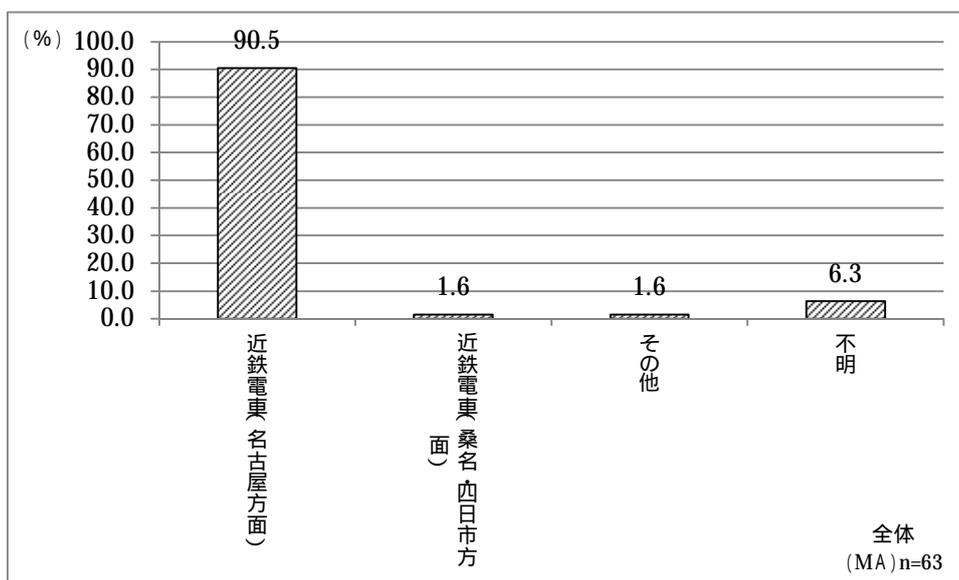
乗車する前の移動手段（問 1-5）

・「徒歩」でのバス利用が69.8%が最も多く、次いで「自動車（送迎）」（19.0%）が多い。



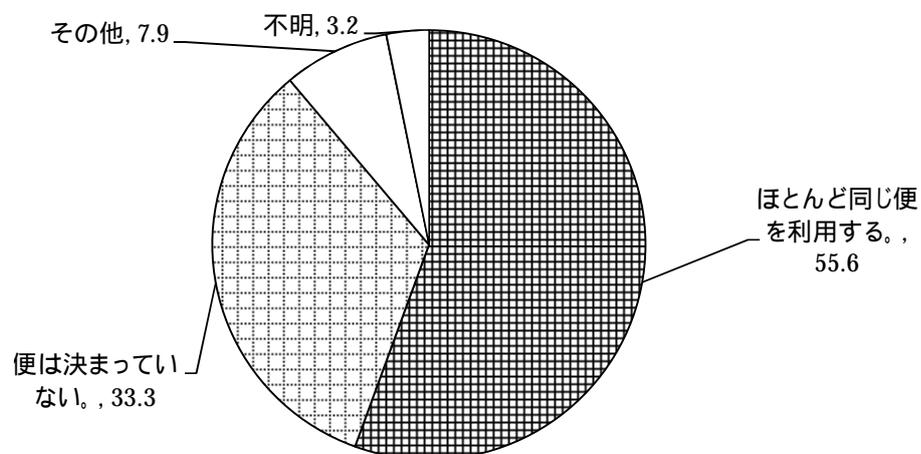
降車からの移動手段（問 1-6）

・蟹江線利用後は、「近鉄電車（名古屋方面）」が90.5%となっており、名古屋方面への移動が多い。



いつも同じ便を利用するか (問 1-4)

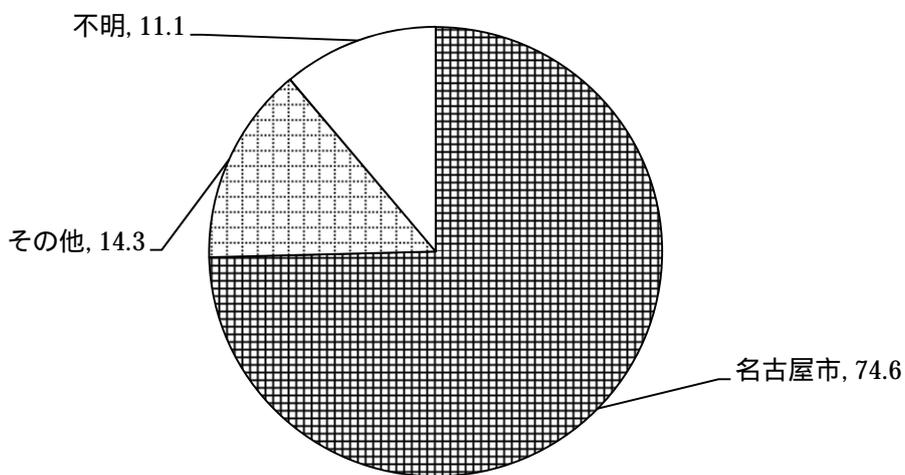
・利用されている便は、「ほとんど同じ便を利用する」人が 55.6% となっている。



(%)全体
(SA)n=63

最終目的地 (問 1-7)

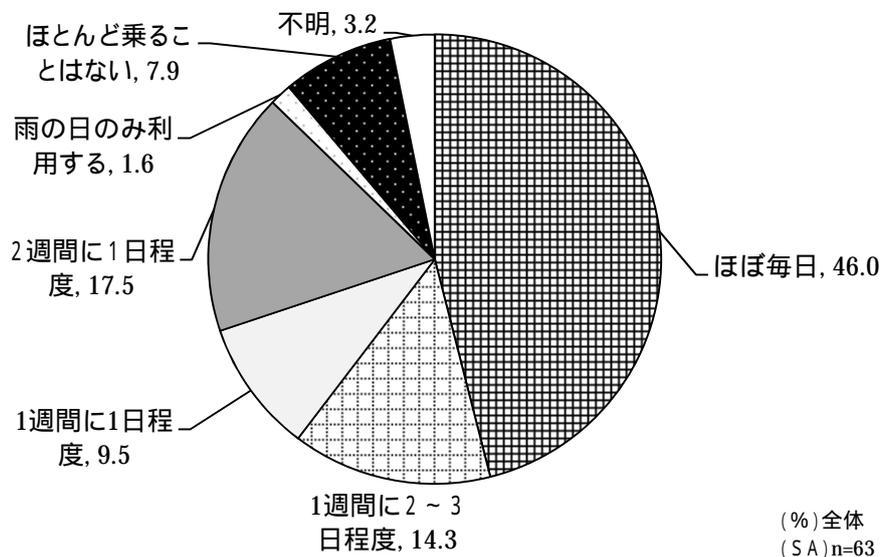
・最終目的地は、「名古屋市」が 74.6% となっている。



(%)全体
(SA)n=63

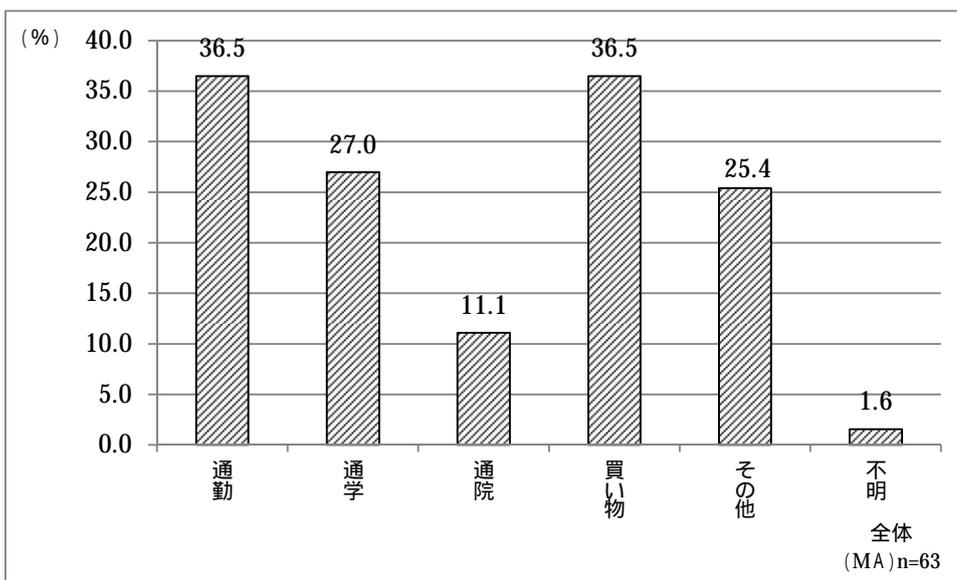
利用頻度（問 1-8）

- ・利用頻度は、「ほぼ毎日」が 46.0%と約半数を占める。
また、「ほとんど乗ることはない」との回答が 7.9%認められた。



利用目的（問 1-8）

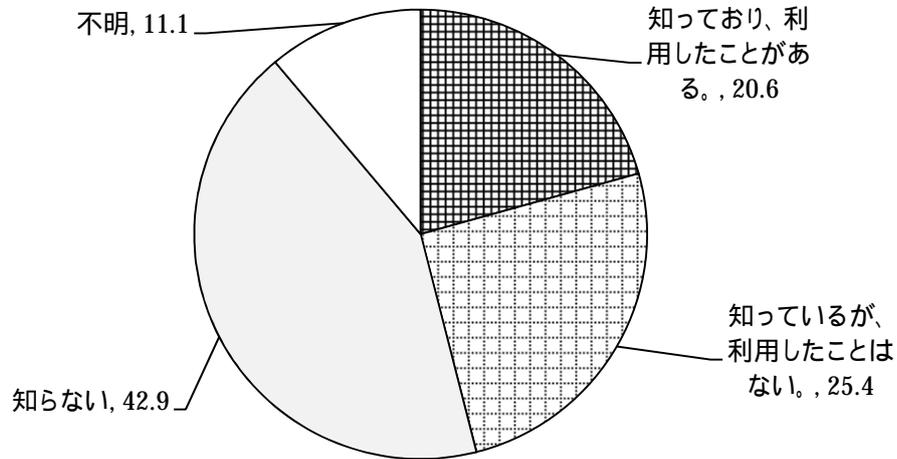
- ・利用目的は、「通勤」と「買い物」が 36.5%と最も多く、次いで「通学」27.0%となっている。



その他利用
・アルバイト、仕事、
旅行、習い事など

バスロケーションシステムの導入の認知状況（問 1-10）

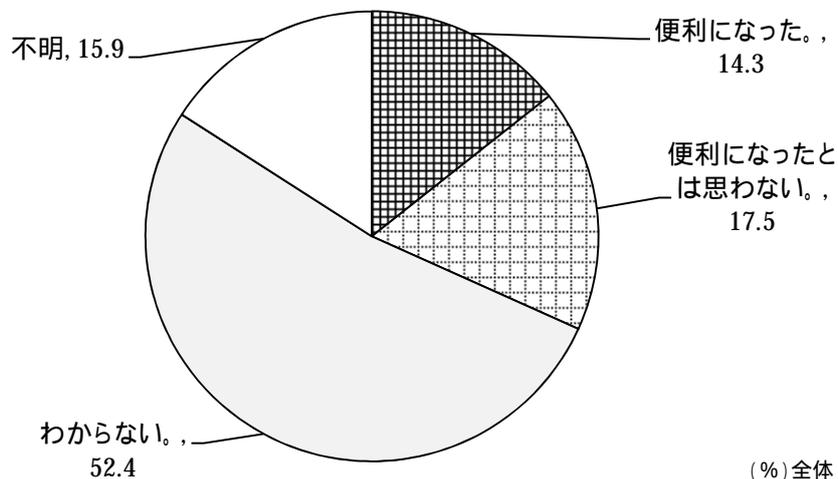
- ・「知らない」人が 42.9%存在している。
- ・「知っており、利用したことがある」人は 20.6%確認された。
- ・公民館分館行きよりも認知度と利用割合が共に高い。



(%)全体
(SA)n=63

バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直し・駐輪場整備の効果（問 1-11）

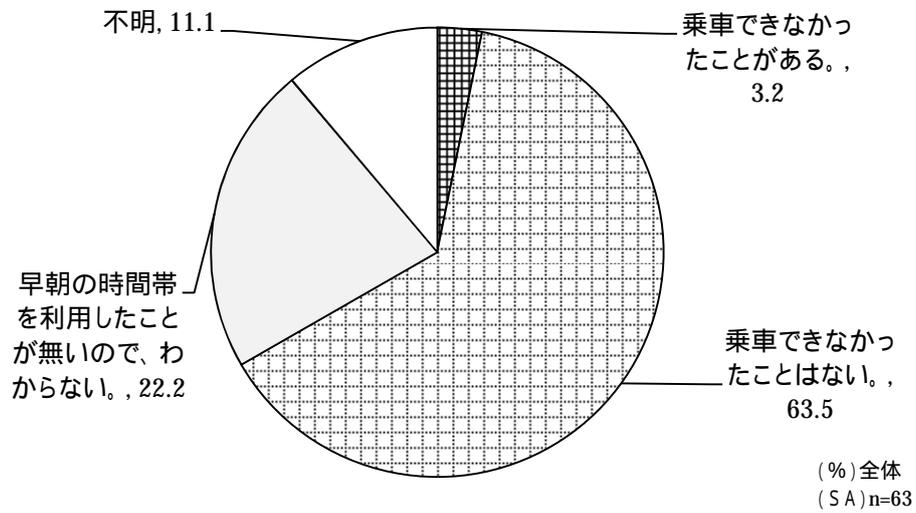
- ・「便利になった」との回答は 14.3%認められた。
- ・「わからない」との回答が 52.4%であり、また「便利になったとは思わない」との回答が 17.5%存在するため、あまり大きな事業効果が認められる状態とはなっていない。



(%)全体
(SA)n=63

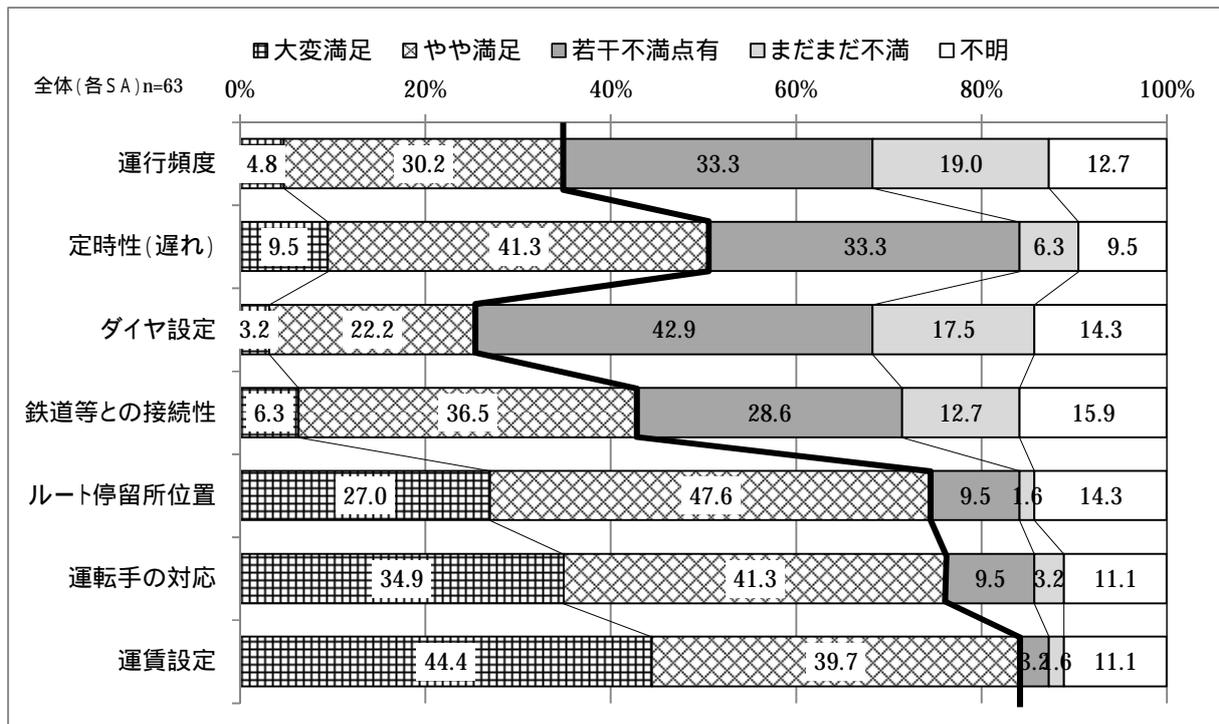
「早朝の時間帯」における利用状況（問 1-11）

・早朝の時間帯で満車となり「乗車できなかったことがある」人は3.2%で、二人存在したが、「乗車できなかったことはない」が63.5%で、まだ、満車が常態化してはいない。

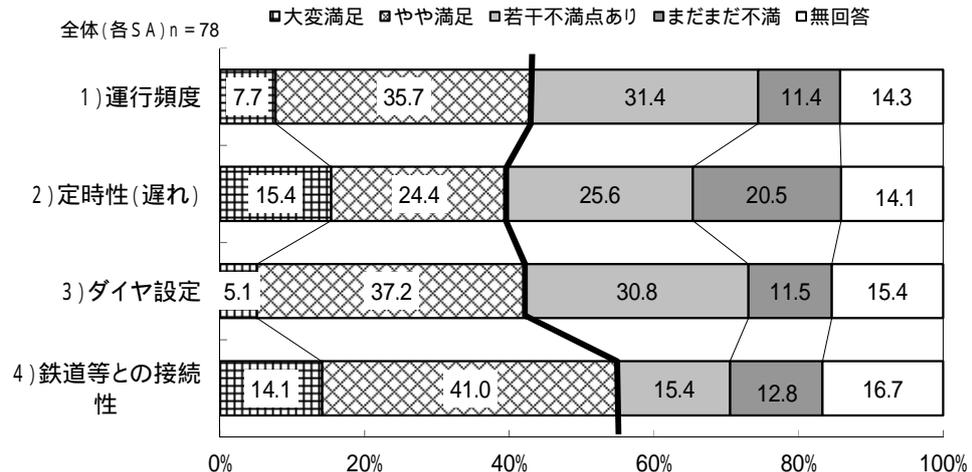


(3) 運行サービスに対する満足度

- ・「大変満足」「やや満足」の合計は、「運行頻度」「ダイヤ」「鉄道等との接続性」を除き、過半数を超えており「ルート停留所位置」「運転手の対応」「運賃設定」は非常に満足度は高い。
- ・「運行頻度」の満足度は35.0%（43.4%）、「ダイヤ設定」は25.4%（42.3%）となっており、前回調査（括弧表記）と比較すると、満足度は低下している。
- ・自由意見でも指摘されているが「増便」の要望の声が認められる。



前回調査



(主な意見)

- ・もっと便を増やしてほしい。休日の便数を増やしてほしい。
- ・夜の運行本数が少ない。
- ・最終バスの時間延長してほしい。
- ・停留所の外灯の整備。
- ・ICカードの導入をしてほしい。

第2節 名港線 利用者アンケート調査結果

第1 調査概要

飛島公共交通バス（名港線）の利用者の意向を確認するため、利用者向けアンケート調査を実施した。

名港線は、蟹江線と同様に、平日1日・休日（土曜）1日の合計2日間の調査とした。

調査対象

飛島公共交通バス（名港線）の利用者

調査日

2017年10月13日（金）～14日（土）

回収締切：11月13日（月）到着分まで

実施方法

調査員による直接配布（停留所にて）・郵送回収

（配布時間 7：00～15：00）

配布・回収数

	配布数	回収数	回収率	前回
名港線	227件	87件	38.3%	51件

前回調査は、2014年2月14日（金）～2月15日（土）の2日間

結果概要

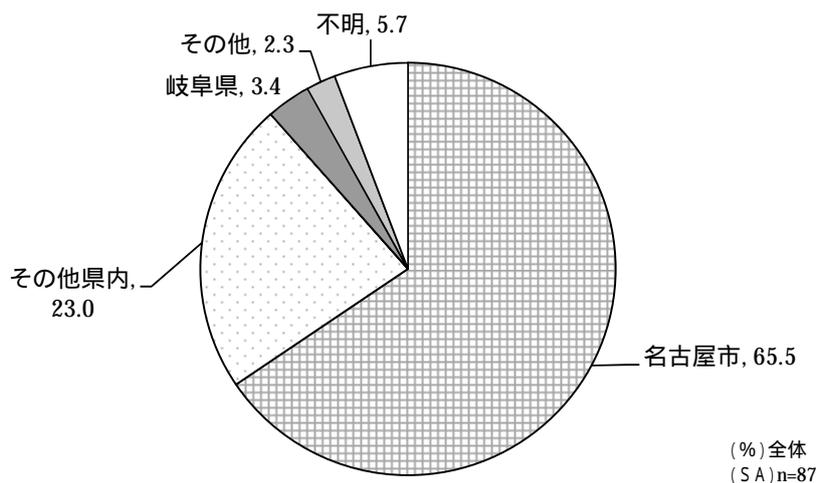
- ・名港線は、名古屋市からの利用者が多く、40～60歳の男性の通勤の利用が多い。
- ・バスロケーションシステムの導入の認知度は、「知っている」との回答が67.8%で、蟹江線と比較すると高い認知度となっており、また「利用したことがある」人は24.1%確認された。
- ・バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直しの取組効果は、「わからない」との回答が過半数を超えるものの、「便利になった（21.8%）」との回答が「便利になったとは思わない（11.5%）」の回答を上回り、一定の効果は確認された。
- ・早朝の時間帯における利用状況は、「乗車できなかったことがある」との回答は13.8%で、一割の人が経験している。「乗車できなかったことはない」との回答が71.3%で、満車が常態化はしていないが、蟹江線よりも乗車できなかった経験者が多い。
- ・運行サービスに対する満足度は、「運行頻度」「ダイヤ」「運賃設定」の満足度が低く、「増便」の要望の声が認められる。

第2 名港線の調査結果

(1) アンケート対象の属性

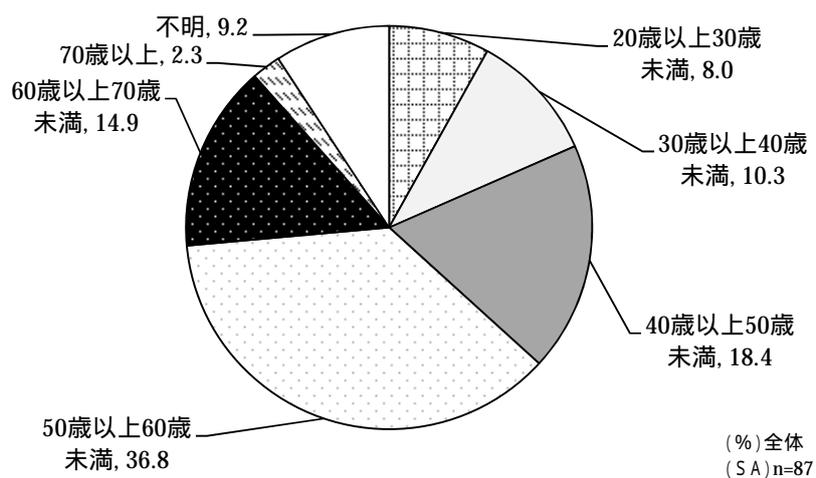
「居住地」

・「名古屋市」に居住されている方が 65.5%となっており、名古屋市等からの通勤利用となっている。



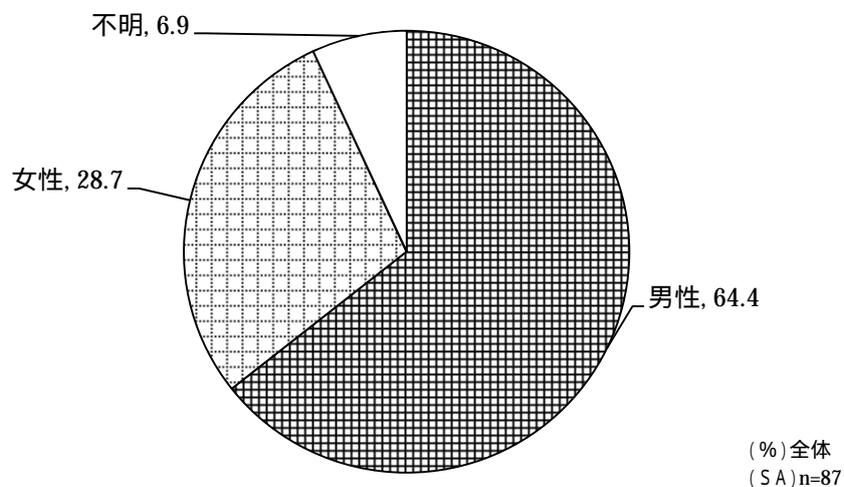
年齢

・「20歳以上30歳未満」が 8.0%、「30歳以上40歳未満」が 10.3%、「40歳以上50歳未満」が 18.4%、「50歳以上60歳未満」が 36.8%、「60歳以上70歳未満」が 14.9%、「70歳以上」が 2.3%となっている。
・50歳台の利用が比較的多い。



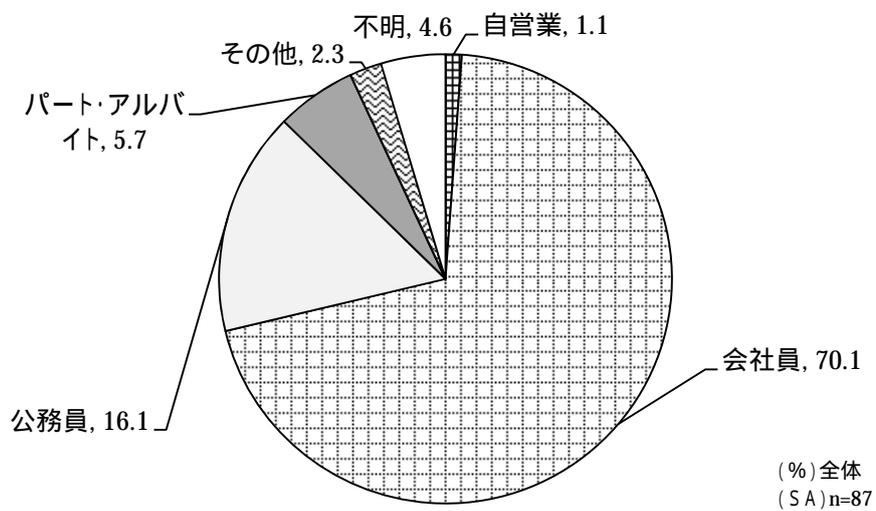
性別

・「男性」が64.4%、「女性」が28.7%となっており、男性が多い。



職業

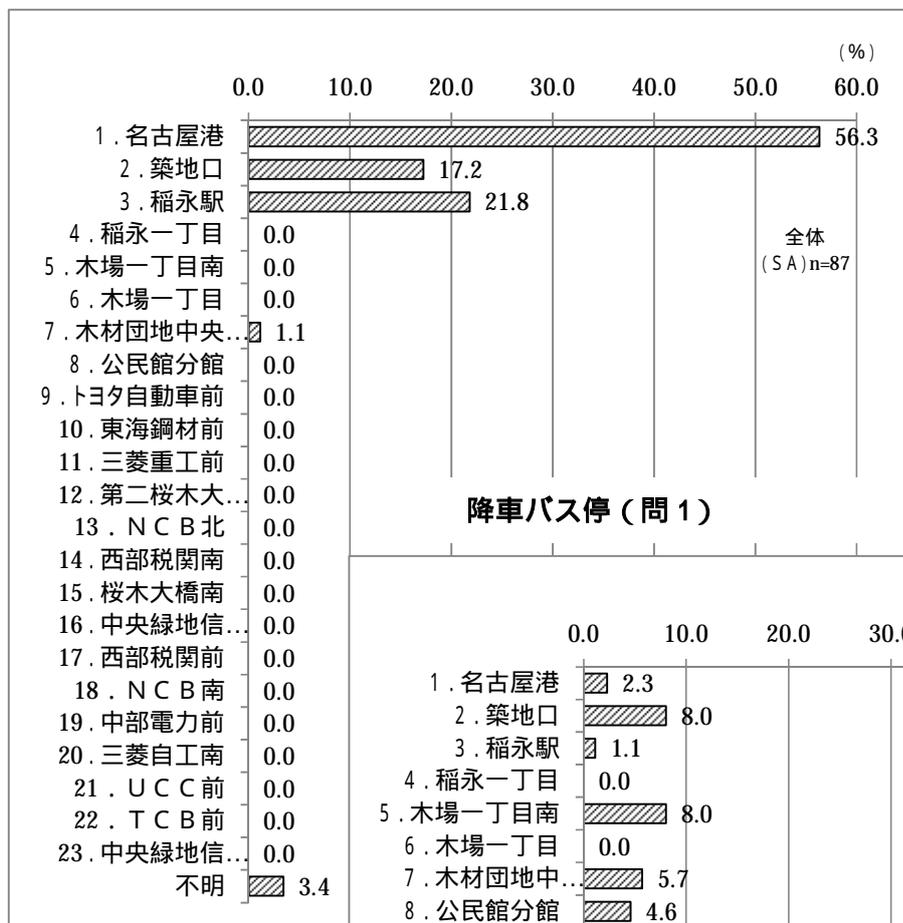
・名港線であることを反映し、「会社員」が70.1%と多い。



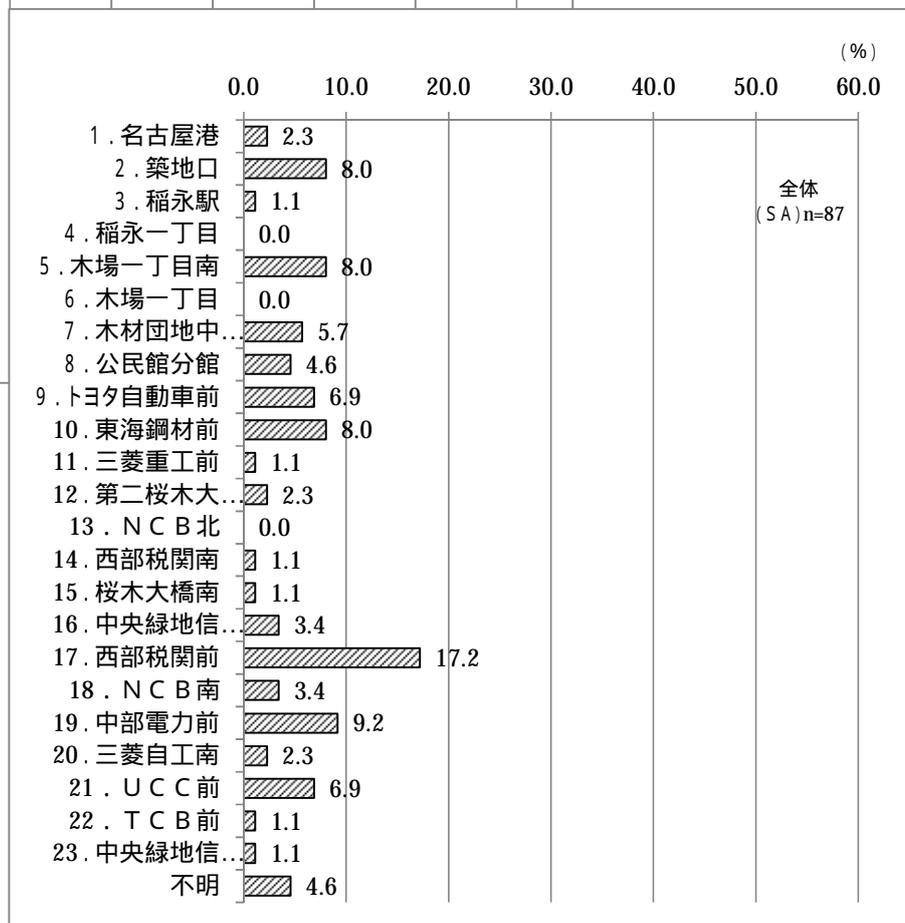
(2) 利用実態 (問1)

- ・乗車バス停は、「名古屋港」が56.3%となっており、次いで「稲永駅」が21.8%となっている。
- ・降車バス停は、「西武税関前」が17.2%で最も多く、次いで「中部電力前」が9.2%となっている。

乗車バス停 (問1)

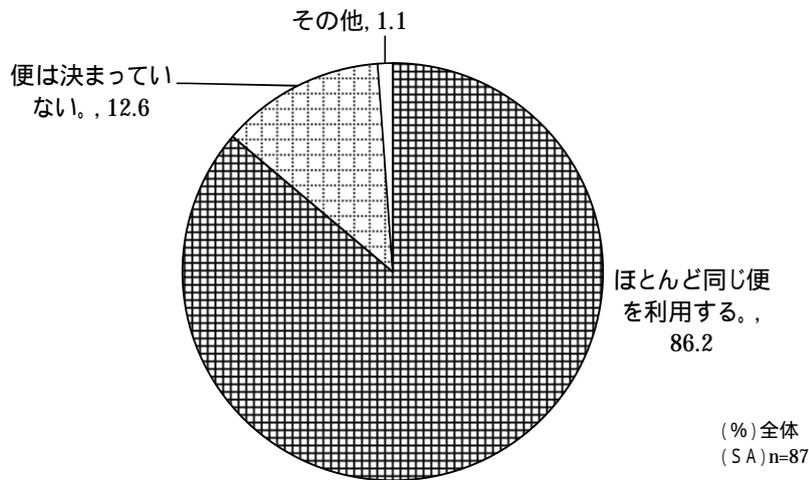


降車バス停 (問1)



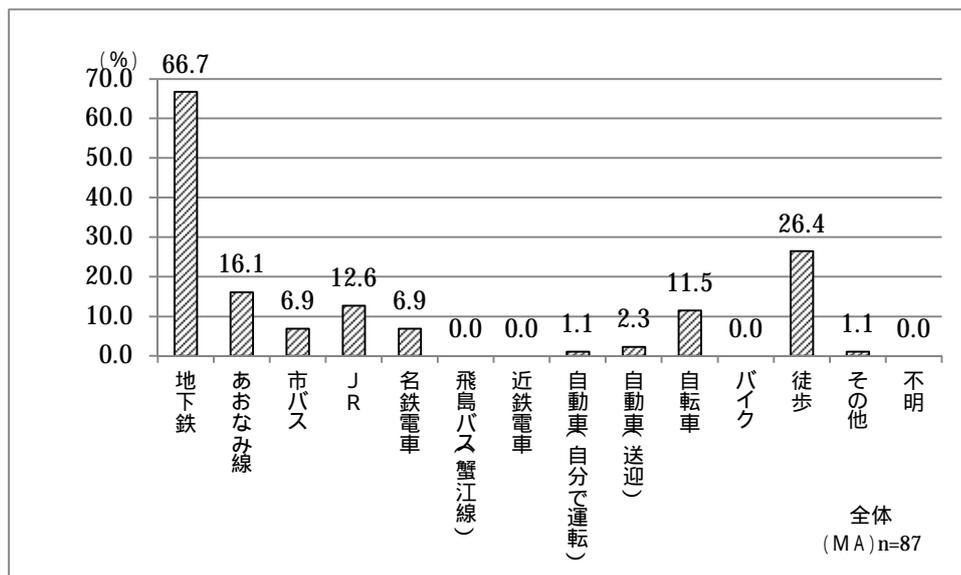
いつも同じ便を利用するか（問 1-3）

・利用する便は、「ほとんど同じ便を利用する」人は 86.2% で、定期利用されている。



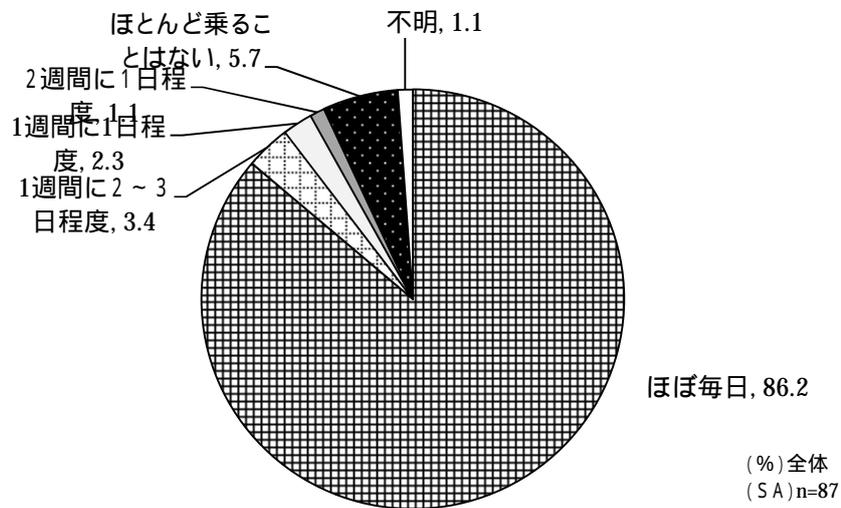
バス利用前後の移動手段（問 1-4）

・「地下鉄」からの乗り換え利用が 66.7% と最も多く、次いで「徒歩」(26.4%) が選択されている。



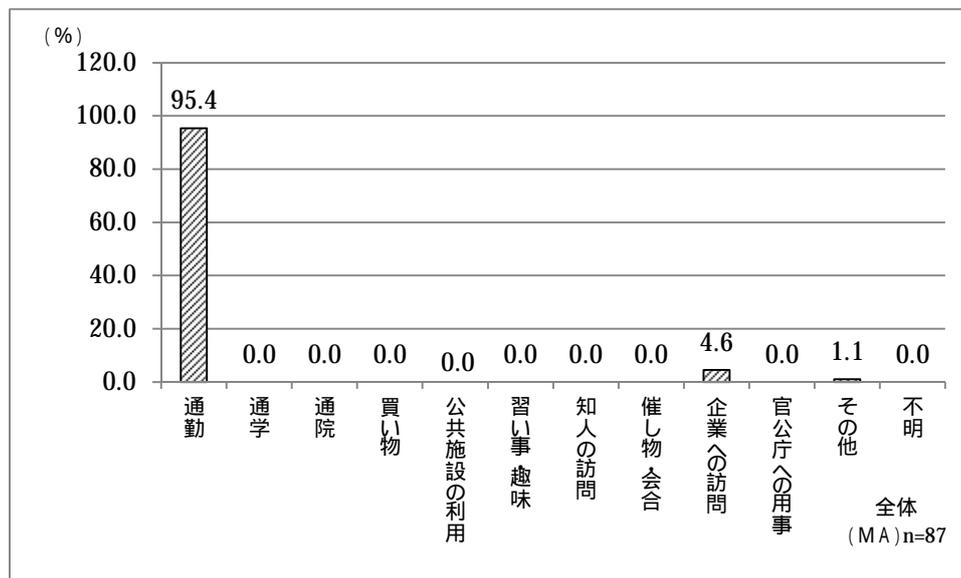
利用頻度（問 1-7）

・利用頻度は、「ほぼ毎日」が86.2%となっており、通勤利用されていることがわかる。



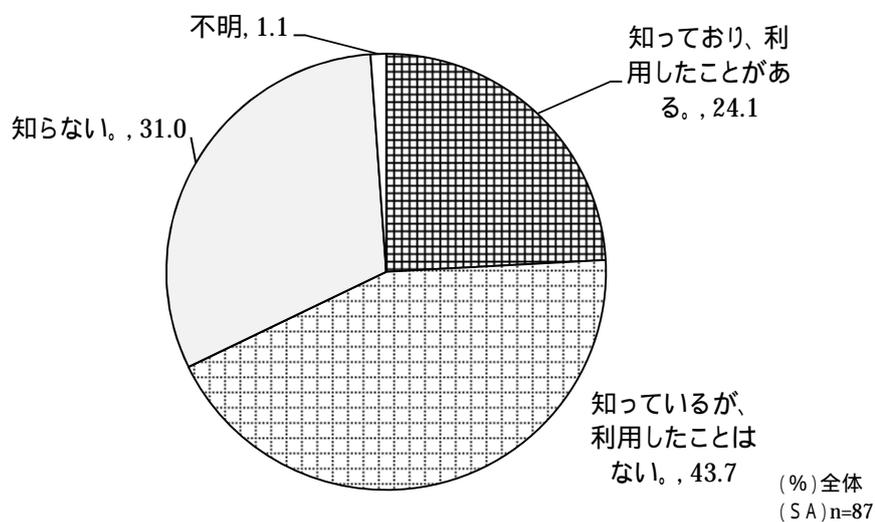
利用目的（問 1-8）

・利用目的は、「通勤」が95.4%と最も多い。



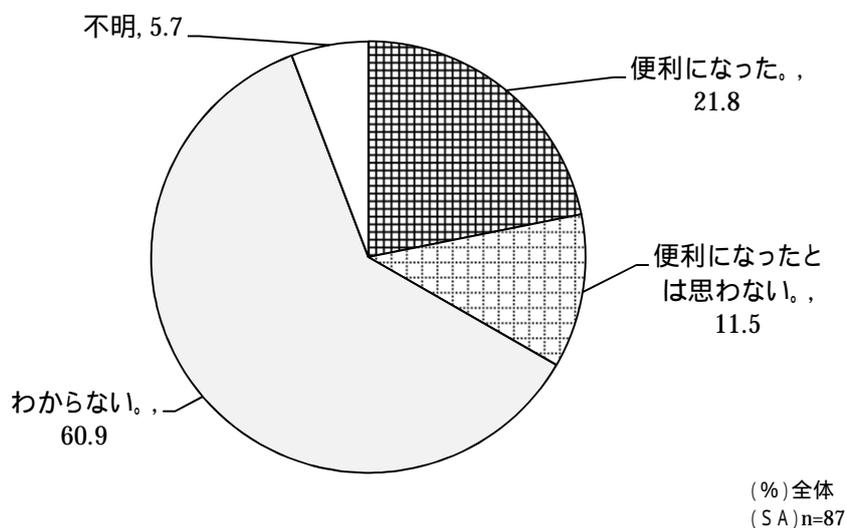
バスロケーションシステムの導入の認知状況（問 1-9）

- ・「知らない」人が 31.0%で、蟹江線と比較すると高い認知度となっている。
- ・「知っており、利用したことがある」人は 24.1%確認された。



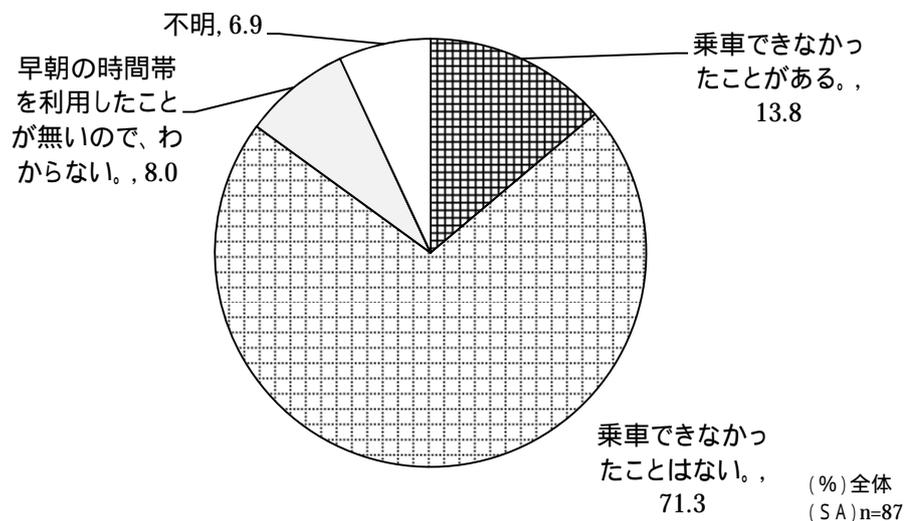
バスロケーションシステムの導入・ダイヤの見直しの効果（問 1-10）

- ・「わからない」との回答が 60.9%ではあるが、「便利になった」との回答は 21.8%認められ、「思わない」(11.5%)との回答より上回っているため、一定の効果は確認された。



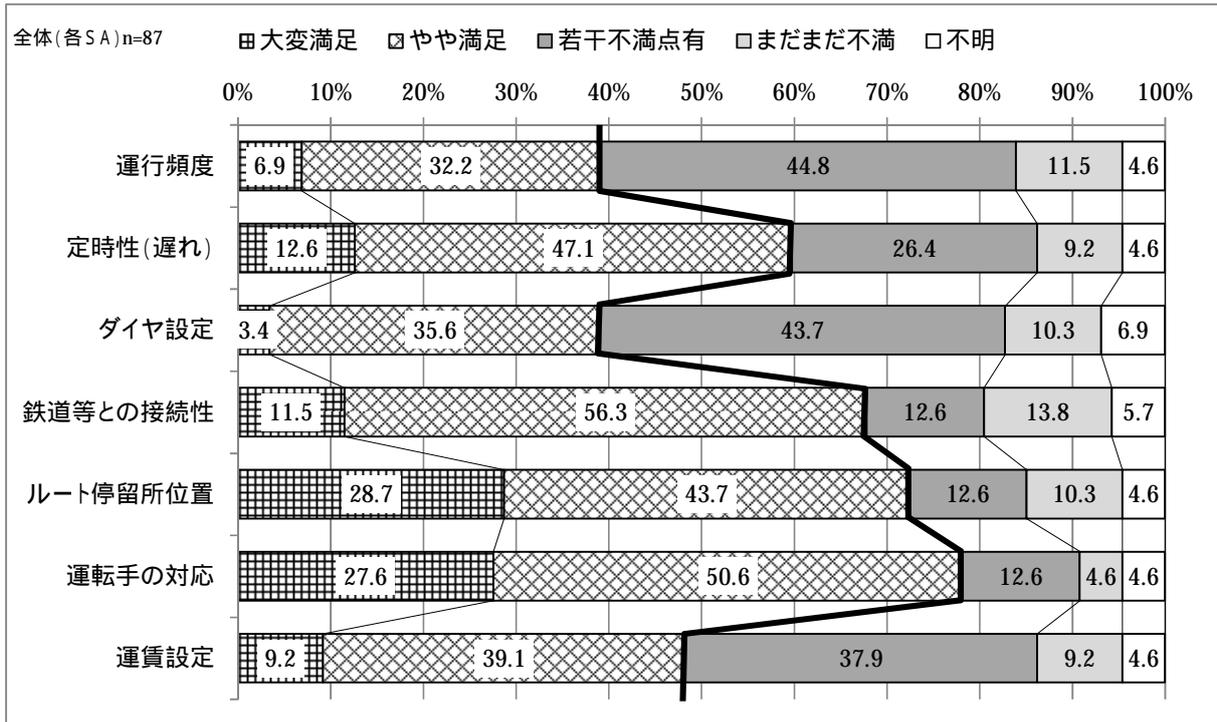
「早朝の時間帯」における利用状況（問 1-11）

- ・早朝の時間帯で満車となり「乗車できなかったことがある」人は 13.8%で、一割の人が経験している。
- ・「乗車できなかったことはない」が 71.3%で、満車が常態化してはいないが、乗車できなかった経験者は、蟹江線よりも多い。

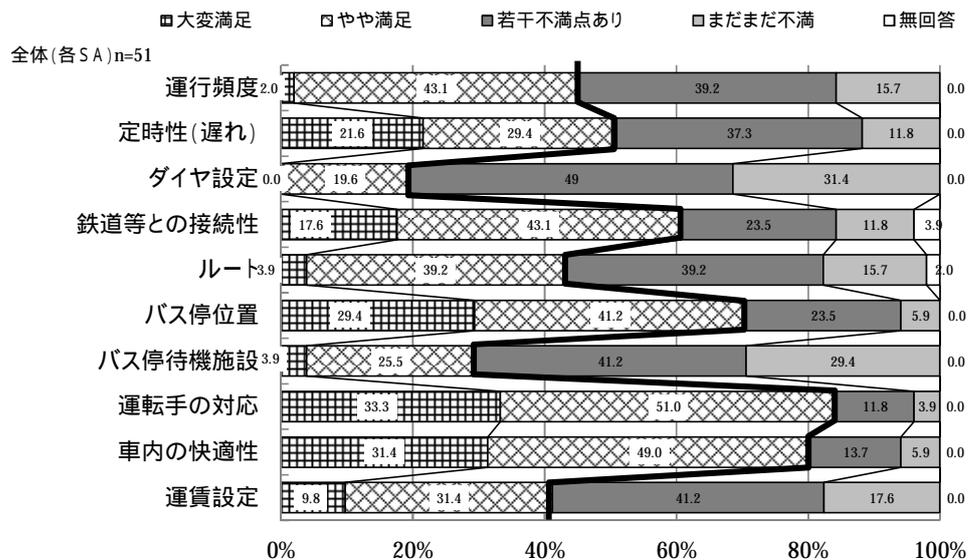


(3) 運行サービスに対する満足度

- ・「大変満足」「やや満足」の合計は、「運行頻度」「ダイヤ設定」「運賃設定」を除き、過半数を超えており、「運転手の対応」や「ルート停留所位置」「鉄道等との接続性」は満足度が高い。
- ・「運行頻度」の満足度は39.9% (45.1%)、「ダイヤ設定」は39.0% (19.6%)、「運賃設定」は48.3% (41.2)となっており、前回調査(括弧表記)と比較すると、「運行頻度」のみ満足度は低下している。
- ・自由意見でも指摘されているが「増便」の要望の声が認められる。



○前回調査



(主な意見)

- ・通勤時間帯の本数を増やしてほしい。
- ・早朝便、最終便の拡充。
- ・定時性の向上。
- ・名古屋港と築地口のどちらかの停留所の廃止。
- ・運転手の対応が人によって違う。
- ・運賃が高い。
- ・定期券の購入方法が不便。

第3節 海南病院通院支援タクシー 利用者アンケート調査結果

第1 調査概要

海南病院通院支援タクシーの利用者の意向を確認するため、利用者向けアンケート調査を実施した。

海南病院通院支援タクシーは、今回初めて実施し、運行事業者の協力の得られる10月～11月の1か月間の調査とした。

調査対象

海南病院通院支援タクシーの利用者

調査日

2017年10月10日(火)～11月9日(木)

回収締切：11月13日(月)到着分まで

実施方法

運行事業者(ドライバー)による直接配布・郵送回収

配布・回収数

	回収数
タクシー	23件

結果概要

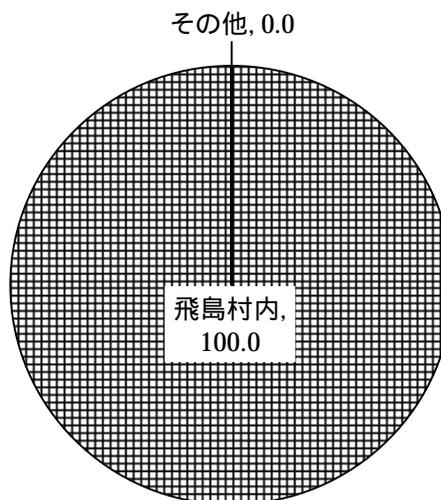
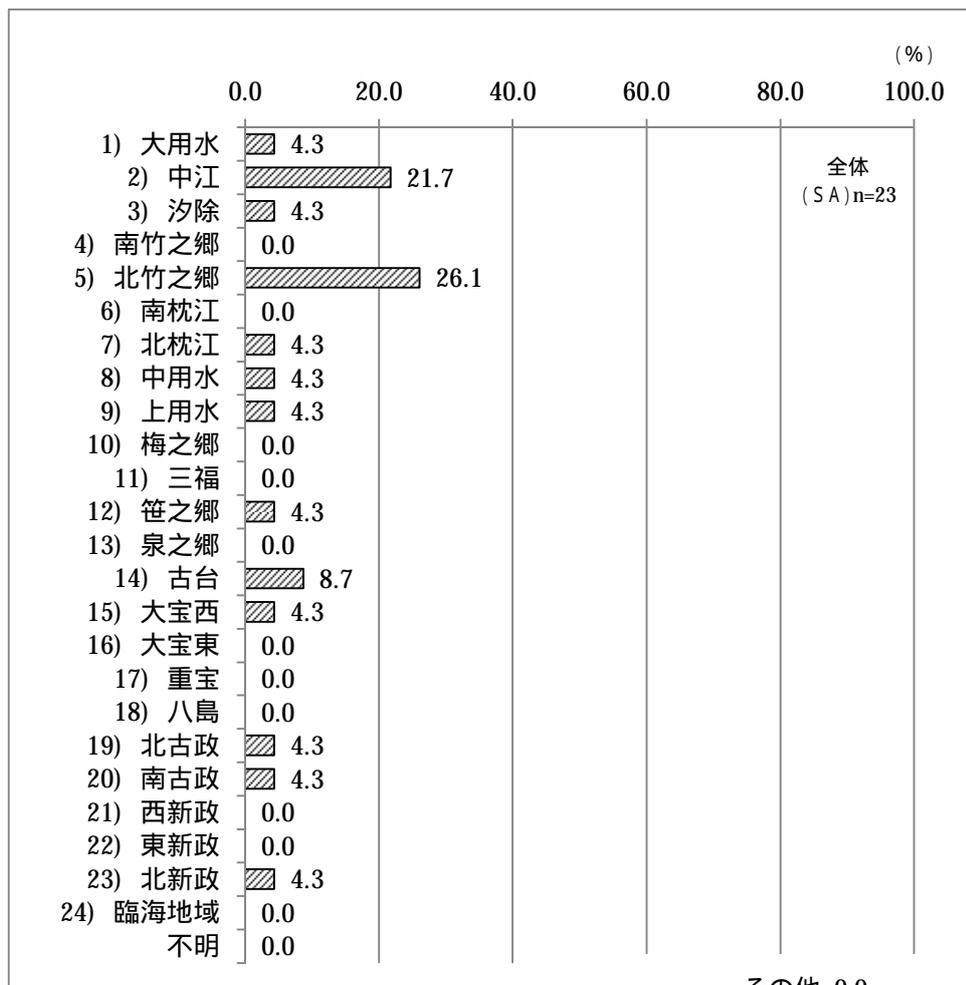
- ・海南病院通院支援タクシーの利用者は、全て飛島村内居住者で、60歳以上の高齢者・女性がほとんどを占める。また、往復の利用となっている。
- ・停留所の増設の認知度は、「知らない」との回答が60.9%となっている。一方の「16時発の帰り便の増便」の認知度は、「知らない」との回答が34.8%で、増便の認知度は高かった。停留所の増設は、居住地との関係から関心度が低かったものと思われる。
- ・停留所の増設・増便の取組効果は、「便利になった」との回答が60.9%認められ、「思わない」(8.7%)との回答より大きく上回っており、効果が確認された。
- ・運行サービスに対する満足度は、全ての項目で、満足度が60%を超えており、高い満足度の評価を得ている。特に「運転手の対応」「運賃設定」「タクシー車両の利用」に関する満足度は高い。

第2 海南病院通院支援タクシーの調査結果

(1) アンケート対象の属性

「居住地」

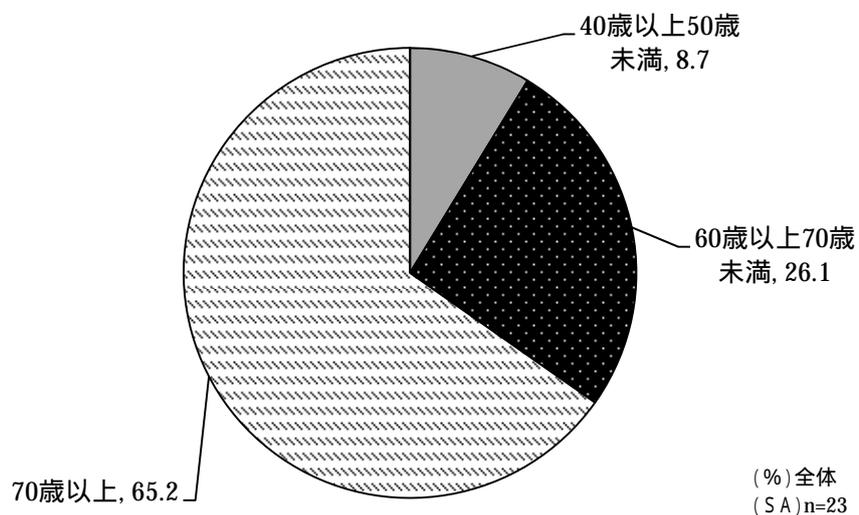
・「飛島村内」に居住されている方が100%となっている。



(%) 全体
(SA) n=23

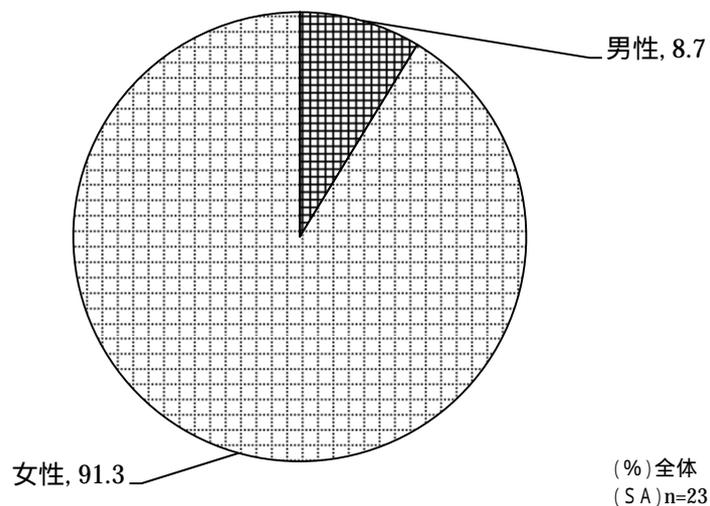
年齢

- ・「40歳以上50歳未満」が8.7%、「60歳以上70歳未満」が26.1%、「70歳以上」が65.2%となっている。
- ・高齢者の利用が多い。



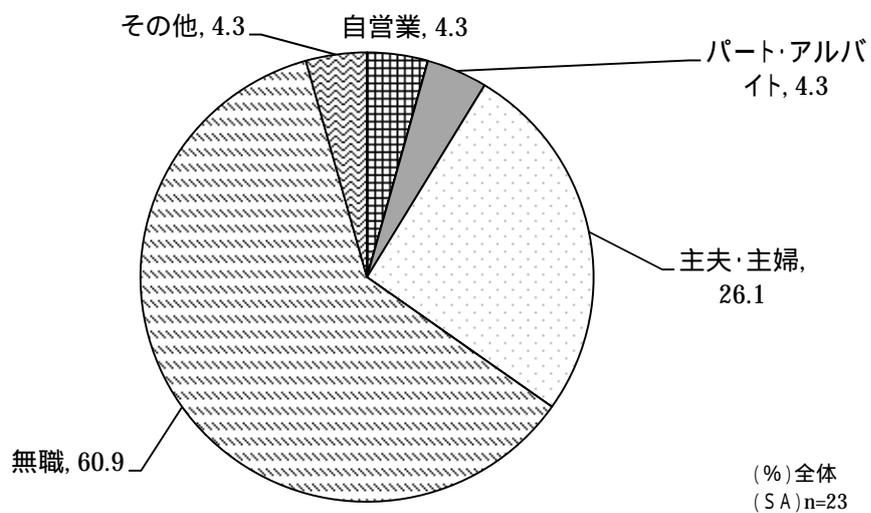
性別

- ・「男性」が8.7%、「女性」が91.3%となっており、圧倒的に女性利用が多い。



職業

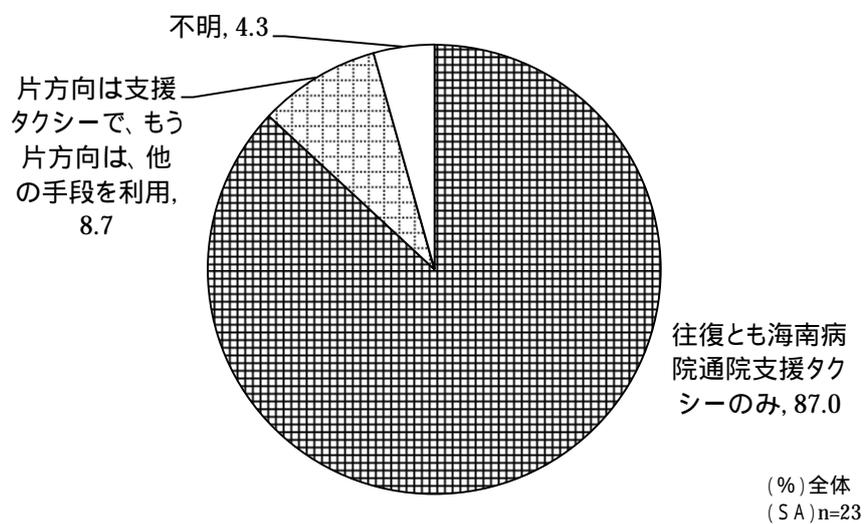
・高齢者・女性の利用が多いことを反映し、「無職」が60.9%と多い。



(1) 利用実態

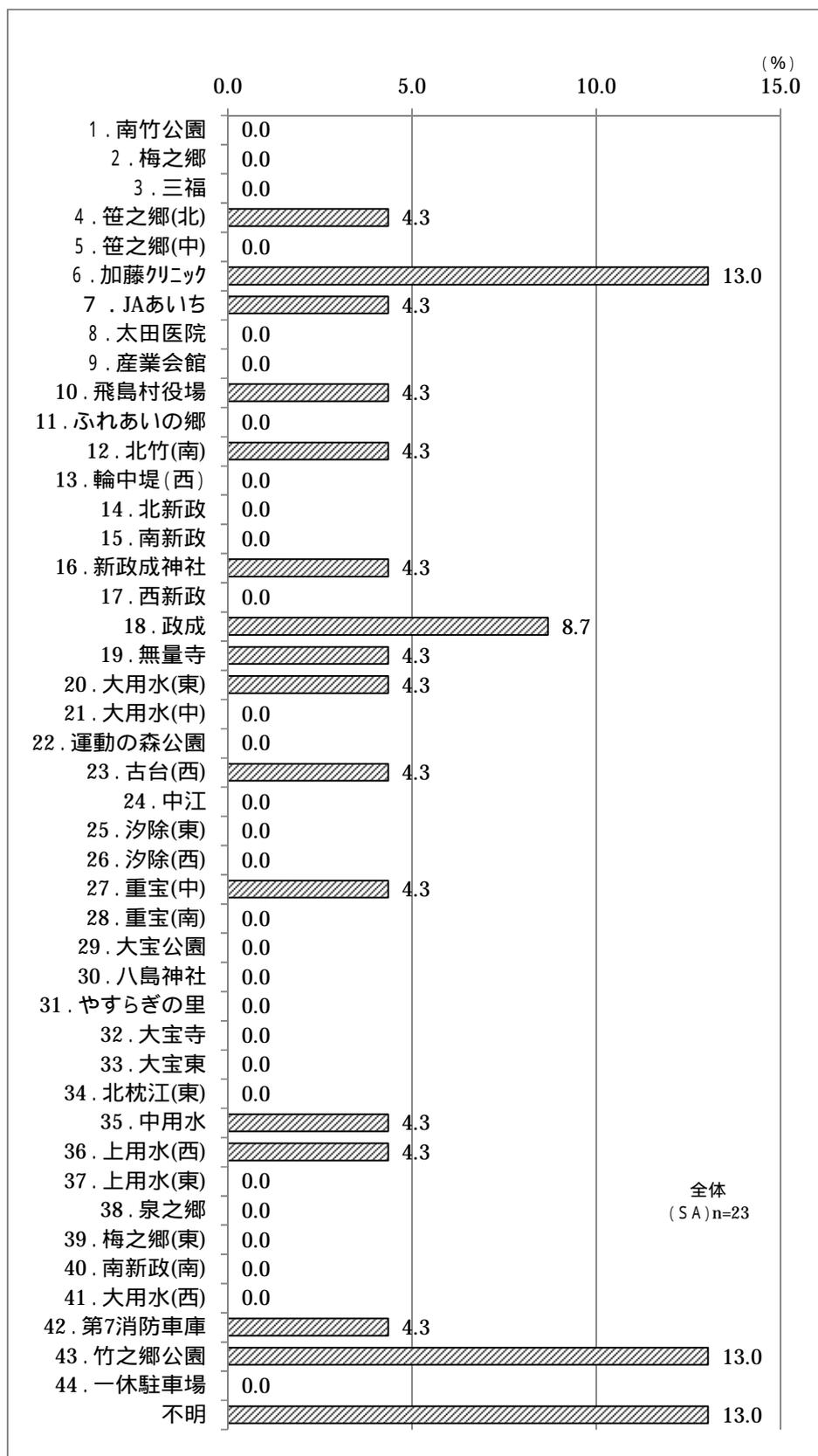
タクシーだけの利用か(問1-3)

・「往復ともタクシー」利用が87.0%となっている。



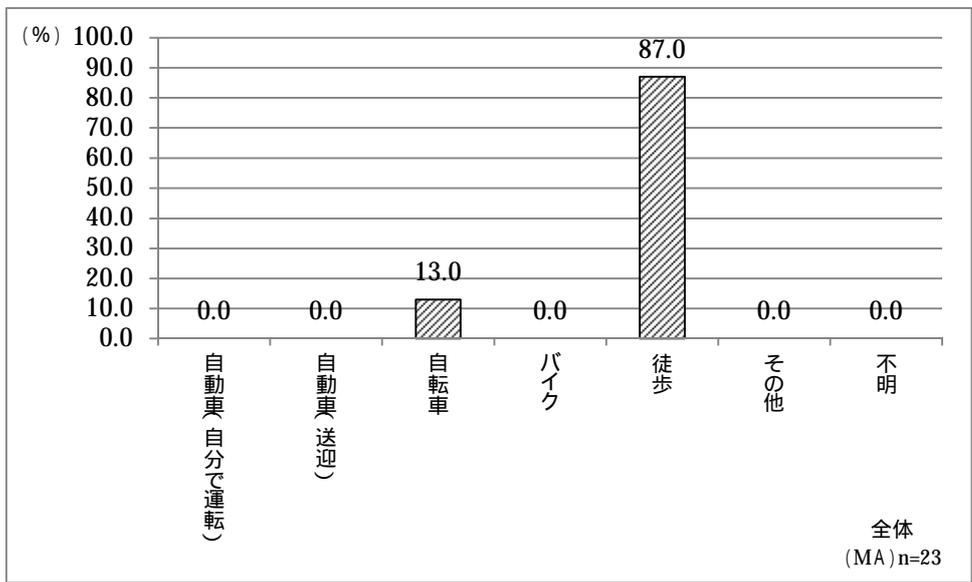
乗車停留所（問 1-2）

・乗車停留所は、「加藤クリニック」「竹之郷公園」が 13.0%と多く、次いで、「政成」なっている。



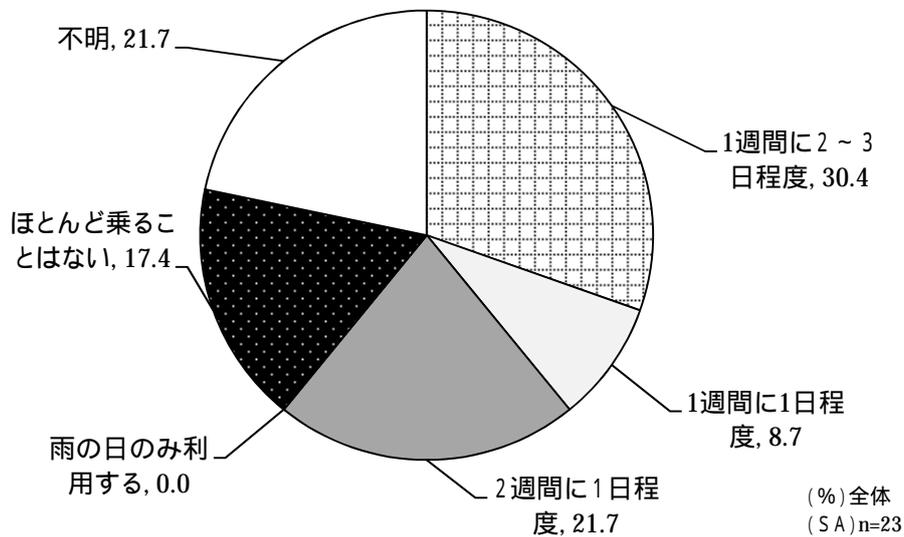
バス利用前後の移動手段（問 1-4）

・停留所をまんべんなく配置していることから「徒歩」利用が87.0%となっている。



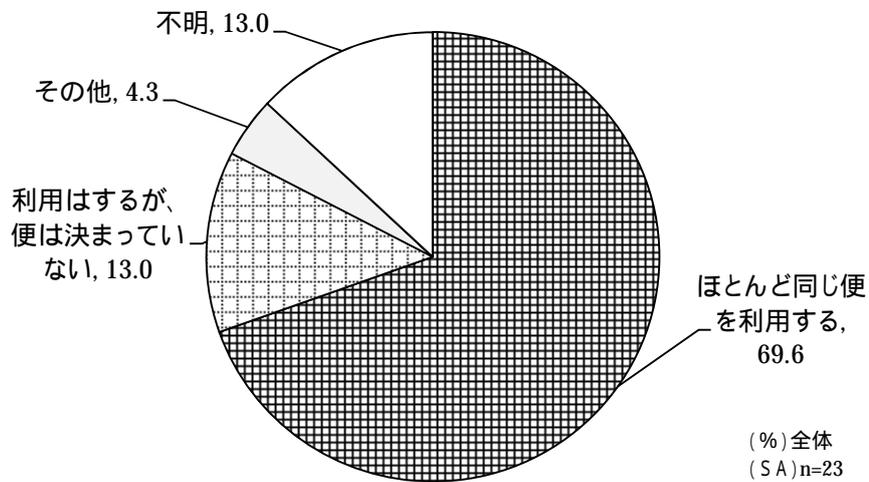
利用頻度（問 1-5）

・「1週間に2～3回程度」が30.4%が最も多く、次いで「2週間に1日程度」が21.7%となっている。



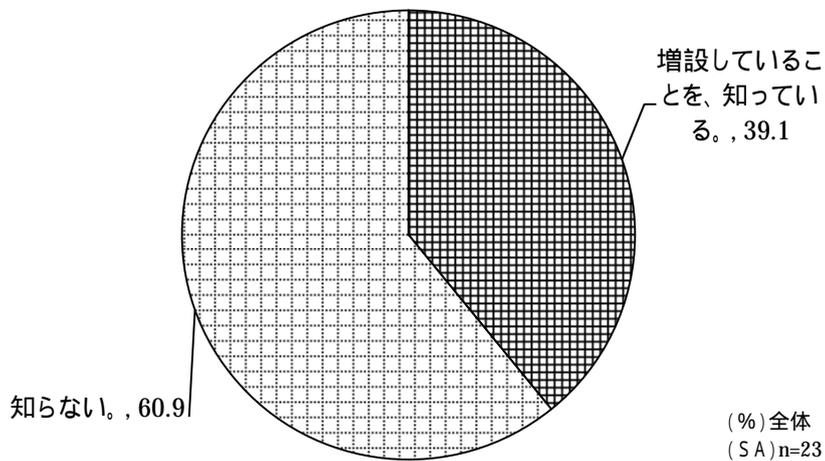
どの便を利用するか（問 1-6）

・「ほとんど同じ便を利用する」人が多い（69.6%）。



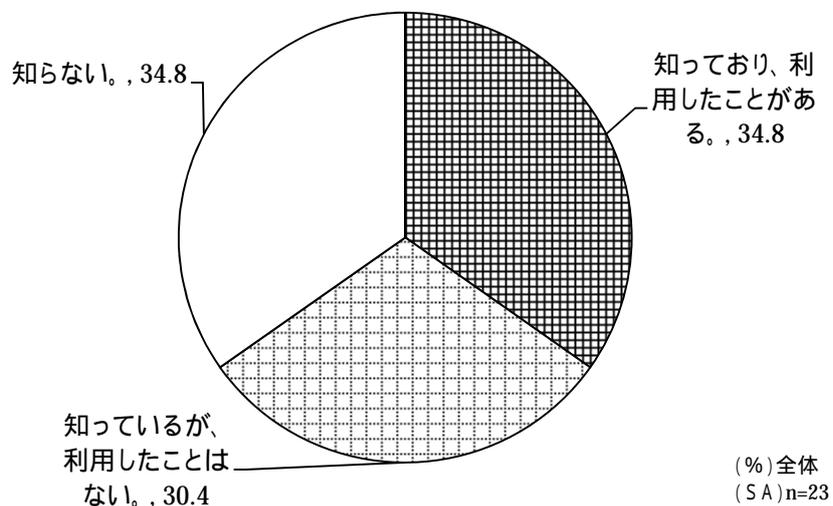
停留所の増設の認知度（問 1-7）

・増設の認知度は、「知っている」との回答が39.1%であった。
居住地から遠ければ関心は低くなるため、その影響が回答に現れたものと想定される。



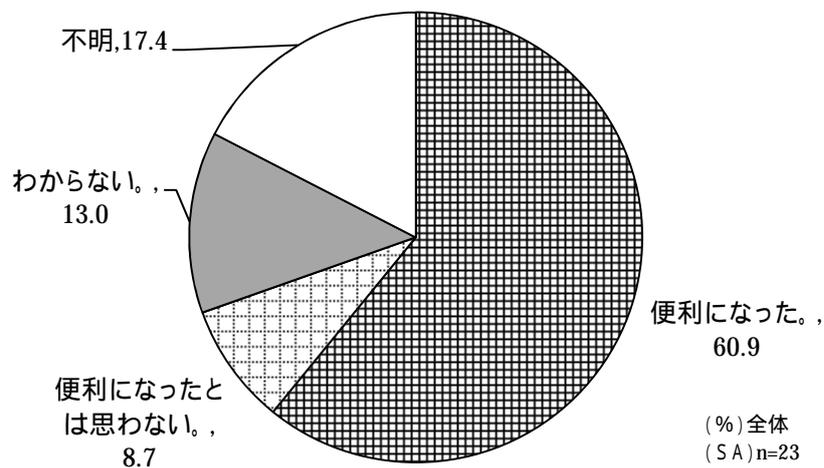
増便の認知度（問 1-8）

- ・「知らない」人が 34.8%で、「停留所の増設」と比較すると高い認知度となっている。
- ・「知っており、利用したことがある」人は 34.8%となっており、増便した 16 時発の利用が認められ、導入効果があったものと思われる。



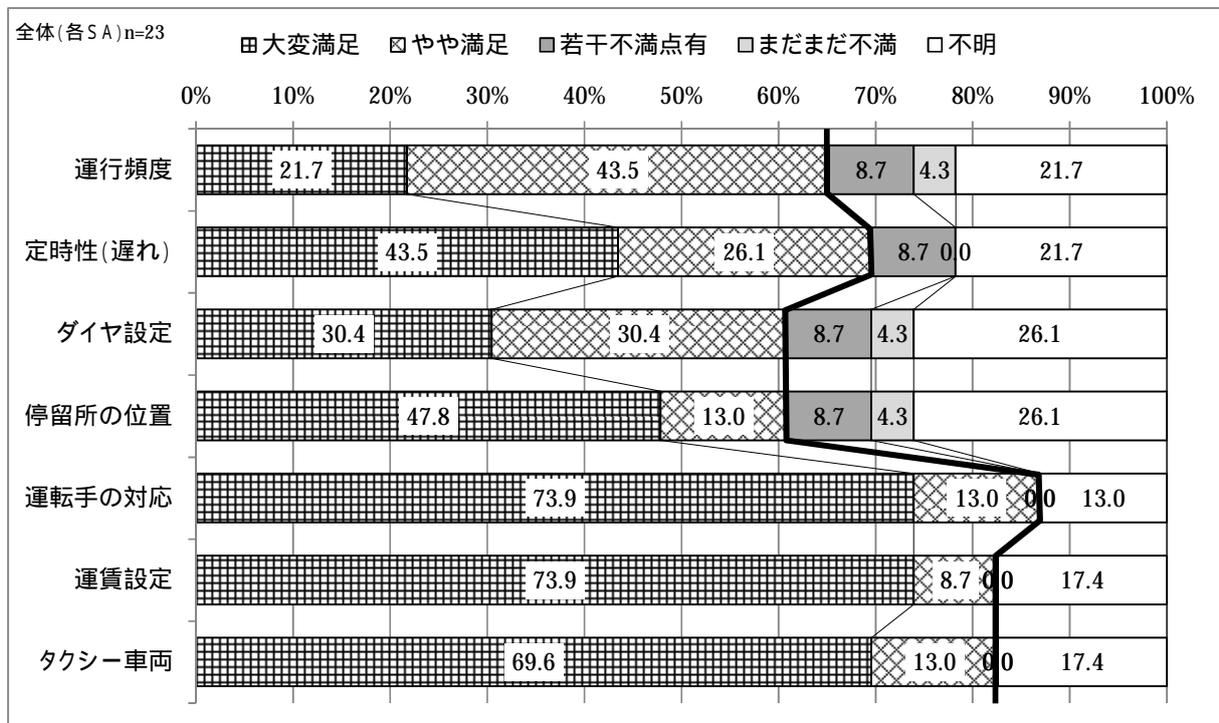
停留所の増設・増便の効果（問 1-9）

- ・「便利になった」との回答が 60.9%認められ、「思わない」(8.7%)との回答より大きく上回っているため、取組効果は確認された。



(2) 運行サービスに対する満足度

- ・「大変満足」「やや満足」の合計は、全ての項目で60%を超えており、高い満足度の評価を得ている。
- ・その中でも「運転手の対応」「運賃設定」「タクシー車両の利用」に関する満足度は高い。



(主な意見)

- ・乗車が一人だったら、家まで乗せていただきたい。
- ・時間が自分の都合に合わない。
- ・海南病院と加藤クリニックの2か所に行きたい。
- ・停留所まで遠い。